

ふじみの



No. 31

東京農大畜友会

巻頭言

畜産学科長 新井 肇

人を送り、人を迎える春が、今年もやってきた。卒業と入学は大学行事のハイライ
トであり、毎年同じことを繰り返しているようであるが、出てゆく者も入ってくる者
も、一人一人にとっては一生に一度の出来事であり、その感慨はひとしおのものがあ
ると思う。ともあれ、心から祝意を表したい。

世はまさに天下泰平。諸君の大学生活はわが国学生史上例をみない恵まれた条件下
にあったと思う。学生が戦場に送られたり、食糧難や就職難に苦しんだ時代はもう昔
話になってしまった。

しかし、学園の中は春でも、眼を外に転ずると、平和なのは日本だけで戦争と飢餓

はまだ人々をとらえて離さないし、国内でも経済、社会の前途は多難である。とくに農業や畜産に向って吹く風はこのところ一段と厳しいものがある。平穏と繁栄のウラにあるこのような混乱と矛盾を洞察する眼をもたなくてはならないと思う。

卒業する諸君には、この社会に自分が何ができるかを考えてほしいし、新入生の諸君には、何のために学ぶかを考えてほしい。自分の人生の順風満帆だけを願うのではなく、世の中とかかわりの中で、自分の生き方を考える人間であってほしい。そのためには、自分が農大生であり、畜産人であるという原点を見つめ、そこから出発するしかないと思う。

今日、その第一歩を記す諸君にもう一度おめでとうを申し上げたい。

平成四年二月吉日

ふじみの発刊にあたり

畜産学科三年 南 條 拓 夫

暖冬といわれつつも寒かった日々、しかしそれもようやくゆるみつつある今日この頃、「ふじみの」の三十一号を発刊することになりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生諸志の原稿を記載すると共に、昨年一年間の事業報告、決算報告などを記載しております。各氏とも、一生懸命書いた文章ばかりなので、皆さんどうぞご愛読下さい。

ふじみの
目次

第31号

巻頭言

ふじみの発刊にあたり

新井 肇 1

集う学友

四年生の夏休み

四年 保科 幸広 25

御一報

インド洋に浮かぶ輝く島(スリランカ)

一戸 健司 6

研究室だより

畜産学科に入ってからこの一年間

一年 斉藤 睦 27

DNAを用いた細菌の分類

渡邊 忠男 14

畜産物利用研究室

29

畜産経営とパソコン利用

石岡 宏司 17

畜産経営学研究室

31

同窓会だより

同窓会より

伊藤 澄磨 23

家畜飼養学研究室

34

畜産学科振興会

ご卒業をお祝いして

渡邊 誠喜 24

家畜繁殖学研究室

39

収穫祭だより

創立百周年記念収穫祭

三年 相原 貴弘 41

平成三年度畜友会事業報告

56

小さな自分をつつめて

三年 前田 博史 42

第21回学内スポーツ大会結果報告

57

畜産大爆笑'91

二年 三沢 英希 42

平成四年度畜友会事業計画

58

心から・・・

三年 荻根 孝範 45

畜友会規約

59

「百周年」記念 家畜苑

三年 村山 壮一 45

編集後記

62

北門装飾

三年 梅脇 博志 47

文展の思い出

三年 矢部 次郎 48

創立百周年記念収穫祭役員

49

創立百周年記念収穫祭結果報告

51

創立百周年記念収穫祭畜産学科統一本部決算報告

53

畜友会だより

平成四年度定期総会報告

54

平成四年度畜友会役員名

54

平成三年度畜友会決算報告

55

インド洋に浮かぶ輝く島 (スリランカ)

教授 一戸 健 司

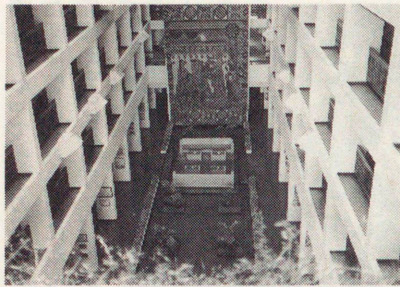
私が初めてこの島を訪れたのが1973年であるから、かれこれ20年の歳月が過ぎ去った事になる。その間この島には幾度か政変が起り、特に昨今のシンハリ族とタミール族との闘争はしれつをきわめてこの国をテロの修羅場と化し、殺生をきらう仏教を信ずる国民性から嚴重に保護されて来た野生動物の保護区も、北部はタミール族のゲリラに、南部はシンハリ族の過激派に占拠され、長らく閉鎖されて来た。こんな次第で私のスリランカ旅行も第4回目の訪問を最後に、10年間足が遠のいてしまった。その間第一回目の渡航時より旧知の間柄にあつたMr. Koditwakkuからは何回も来訪せよとの誘いもあり、一方その間に彼の義弟Mr. Nandasenaの横浜国大での留学等もあったが、この国への渡航は今日迄延ばし延ばしになっていた。コロンボの動物園とはその間に何回か日本鶏とセイロン野鶏との交換を行ない、現在も自宅の庭や繁殖研究室にはそれらの子孫が存命を保ってはいるが、度重

る近親交配によりその繁殖力が極めて低下してしまつた。こんな時に、ふとした機会にP君に「スリランカ」に行ってみないかと話しかけたところ、二つ返事で「かねてから行きたいと思つていた所なので、是非とも連れて行って欲しい」と答えた。早速K氏に連絡して承諾を得、同行のメンバーも決定した。そこに降つて湧いたのが湾岸戦争である。その煽りをくつてクエートやイラクに出稼ぎに行つていたスリランカ人が続々帰国する。有力な紅茶の輸出先であるイラクが不況となり、スリランカからの紅茶の輸出が出来なくなる。果たして行けるのであろうか。私は半信半疑の内に国内の治安は回復し保護区にも入れると言うK氏の言葉を信じ、スリランカへと旅立つた。

八月二十二日(木曜日)

さて出発50分前になる迄同行3名の学生中AとBが姿を見せない。その上九州への台風接近で、成田から福岡経由でコロンボに到着する便がコロンボに直行する事になる。こんな次第でコロンボには予定よりも2時間も早く到着した。

当然の事ながら出迎えのK氏とその友人の姿は見当たらない。あちらこちらと捜しているとホテル案内の人が私に近づき、「K氏は来ない。ホテルからの車が待つているから直行して下さい。」と言う。何分かつてはトップクラスと言われていたオベロイホテル (Hotel Lanka Seron) の事故、幾分不安材料は残るものの言われるままに直行。かつてはその巨大なショッピングアーケ



オベロイホテルの巨大なバティック

ドとロビーの巨大なバティックを誇つたこのホテルだが、何んとなく寂れた印象を受ける。約一時間半も待たつたろうか。K氏が今回運転の労をとってくれるMr. Hanjithと現われ、明日の日程を約し別れた。荷物を整理しながら何時の間にか眠りについていた。

八月二十三日(金曜日)

6時起床、7時に朝食をすませてチェックアウトをする段階となり、昨日の出迎えの車がとてつもない高いつげになっていた事に気付くがもはや手遅れ。先ず最初に「野生動物自然保護局 (Wild Life Conservation Office)」にセイロン野鶏入手の件で出かける。暑い待合室で待つ事約30分。やっと会えた所長のDr. Korasamaは予期に反しオランウータンそっくりな長髪と長い髭をなびかせ、鋭い目をギョロつかせながら私達と対応した。既

園に飼育中のものについて交渉したらどうか。」これが彼の返事であった。

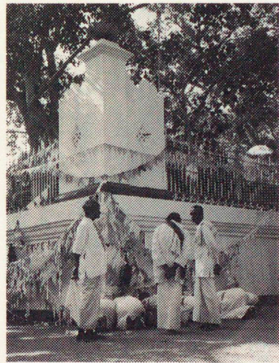
現在のDehiwala Zooの園長Mr. Bradley Fernandoは私が初めてこの国を訪れた時に副園長であった人でよく知っているが、何分この人と交渉した場合には1をもらつて3と5を与える様な結果にしかならないので、今回の旅行では収獲はないと速断した。

昼食後コロンボを後にし約200kmの道のりをマイクロバスに揺られて北上・途中のレストハウスではからずも結婚式を挙行中の若いカップルに会う。アヌラダプーラ (Anuradhapura) と言えば先頃のシンハリとタミールの闘争での最前線の中央部に突出しているシンハリ人の拠点。近づくにつれて軍隊の姿が次第に増し、道路にはあちらこちらにバリケードが築かれ、車はその間を縫う様にして走る。さてA市に位置する軍隊の根拠地の前を通る。これで総てが納得された。敬虔な仏教徒であるシンハリ人にとっては、この仏教の聖地であるA市を何にが何んでも守る必要がある。そこで多数の軍隊を駐屯させてこの聖域を維持し、仏教徒の祈りを守り通したい。

夜食にはこの国ならではの、「カレー」を食べる。最初は口の中がヒリヒリとし、息を吸う度に舌がカアアとしたが、後味はよく胃腸も良好であった。K氏、R氏とは明日の日程の打合せをし、明日の準備、0時30分就寝。学生達はプールで泳いだときき、下痢でもしなければよいがと心配する。

八月二十四日(土曜日)

6時起床。7時朝食。私がいまにも治安の点を心配するので、R氏が彼の友人で当地に駐屯中の陸軍中佐(小佐かもしれぬ)を護衛につけて市内観光となる。このA市は紀元前4世紀〜10世紀迄の約1,300年にわたりスリランカの首都であった都市であり、ここにはスリマハ菩提樹(Sri Maha Bodhi Tree)、トウパラマ大塔(Thuparana Dagoba)、イスルムニヤ精舎(Surumuniya)等多数の遺跡が残されている。先ず最初に訪れたスリマハ菩提樹は、紀元前3世紀にアシヨカ王の王女サンガミツダがインドのブツダガヤの菩提樹(この木の根本で釈迦が悟りをひらいたとされる)の分け枝を苦勞してインドから運んだとされる菩提樹が大切に保存され、私達が訪れた当日は満月とあって多くの信徒がスリランカ全土から夜を徹した礼拝を行なうために集っていた。この寺の大僧正Mr. Gnanarathana Theraは大格な人で、日本にも数度来た事



スリマハ菩提樹に祈りを捧げる信徒

があり、私にくれた名刺には日本語のフリガナがつけてあった。トウパラマ大塔はこの国最古であり、釈迦の左鎖骨

を祀るためにつくられたと言われ、イスルムニヤ精舎は岩をくりぬいた寺院で「恋愛の寺院」として有名であるが、これらの寺院に参拝するためには何れも洗でなくてはならず、私は既に過去何回も見ているので車の中で学生達の帰りを待った。

ここでの見学も終り、この国最大の名所の一つシギリヤロック(Sigiriya Rock)へと向う。私がこの国では是非見ていただきたいのがこのシギリヤロックとヌワラエリヤ(紅茶)、そして動物保護区である。当日は土曜日とあってシギリヤロックは超満員のまさに鈴生りに登る。このシギリヤロックは5世紀にこの地を支配していたシンハリ王ダツセナ(Datusena)が第2夫人の息子カシヤパ(Kasyapa)王子に捕えられ、自分に王位をゆずらないかどで殺害される。カシヤパは正妻の子モガラナ(Mogallana)の復讐を恐れこの岩山に塔を建造しここにたてこもる。一方インドに難をのがれたモガラナはインドで兵をつのりこの塔にむかう。カシヤパとモガラナ



大僧正Mr. Gnanarathana Theraと

は自分達の何れが正しいかを聖なる象にたくし、この象が選んだ者を王ときめると宣言する。象はおくせずモガラナを選びカシヤパは自害する。

さて岩山の絶壁に描かれた当時数百人と言われた美女の壁画が、現在は18体のみであるが保存されて居り、又外敵の侵入に対しては吊り橋を利用して防ぎ、頂上にはかつて王が美女達の舞踊を楽しんだと言われる石のステージが残され、ライオンの爪の形をした王宮へ通じる階段、頂上からの眺望の素晴らしさは何度訪れてもあきる事はない。不幸学生達はあまりにも多い見学者のために途中で引き返したとの事。



ペラヘラ祭りの踊り子達

ディー(Kandy)に向う。途中ダンブラ(Dambulla)に到着した時、今日はこの町でペラヘラ(Pera heral)祭りがあると聞く情報を得た。ペラヘラと言えは8月の第1満月の夜、古都キャンディーで行なわれる100頭の象が釈迦の歯を乗せた象を先頭に行進すると言う祭を思い出す。こ

の祭りは日本でもテレビ等で多く紹介されているが、今日の祭りは象が5頭だと言う。待つ事約2時間、ペラヘラがやって来た。象は5頭であったが多くの踊り子がこれを囲み、松明と爆竹のもとに進められる祭りは印象深いものであった。こんな次第でキャンディーのトパーズホテル(Hotel Topaz)に到着したのは22時を過ぎ、夕食、洗濯等をしていたら就寝は2時を過ぎてしまった。

八月二十五日(日曜日)

7時起床、8時30分朝食。途中蝶の採集等をしながら象の孤児園(Elephant's Orphanage)へと向かう。折から水浴中の事でマハベリ川(Mahaweli Ganga)へと急ぐ。何と41頭、大小さまざまな象が子象を中心に規則正しい水浴をしていた。かつては10〜20頭であったものが、ここ数年間続いた動乱で親から離れた子象が数多く出現し、現在はこの様に多数に達したのだと言う。ここには多数の観光客が来ていたがその大部分はヨーロッパからの客であり、日本からの客は私達のみであった。R氏がAやBに



象の孤児達の水浴

ささやいていた。「見ろ」「見ろ」と。驚いた事には水中から立上がったリーダーの雄のペニスが長く長く伸び、まるで5本の脚を形成している様であった。

蝶の方もBの並々ならぬ反射神経で、アゲハ蝶2頭を含め可成りの収穫があった。ここを後にし、有名なペラデニヤ植物園 (Peradeniya Botanic Garden) を訪れる。蘭のコレクシオン、巨大な蝙蝠、熱帯植物。見るものは多い筈なのに私はただ疲労こんぱいし、早くホテルに帰りたいと願うのみ。ホテルトパーズ泊。

八月二十六日(月曜日)

6時起床、7時朝食。8時15分K氏が彼の義弟M. Nandasenaを連れて来た。Nとは彼の横浜国大への留学期



ペラデニヤ大学にて

間に度重く会い、私の「還暦祝い」にも出席した人物である。スリランカ帰国後の御無沙汰を詫げる事しはし。彼は目下ペラデニヤ大学で助教授をしている関係上、彼の案内でペラデニヤ大学へと向かう。先ず彼のオフィスでお茶を飲んだ後に畜産学科に。先ず科長のDr. Rejagum-Mr.

Bandaraに科の概要をきき、更に帯広畜産大学に留学していたと言う日本語の流暢なMr. Thacmarajiが出現するに至って、今迄静かだった学生達が俄然元気になる。それにしても、来る度にメンバーが大幅に変わっている事を見るにつけ、新陳代謝が可成りのスピードで実施されている様に推察される。

ここで飼育されている白色レグホーン種は可成り古く導入されたイギリス系のもので、目下幾つかの系統に分離育成中の様子。その他にイギリスの香りが残るブラウンレグホーン種、ライトサセックス種、それに南国特有のターケン種(裸首鶏)等々。せっかく世界に類のないセイロン野鶏種を維持しながらもその方面の研究はなく、又アイソトープに関する仕事もよくあんな場所では出来なあと云ったところが、私の印象である。

大学の職員達に別れを告げ、一路この国の避暑地ヌワラエリヤ(Nuwara Eliya)へと向う。1889mの高地にあるこの町には、日光の「いろは坂」の様にうねうねと山道を登らねばならない。次第に標高を増すにつれてあたり一面の茶畑となるが、ここに住むタミールの人達は「インドから労働のために連れて来られた」と言う歴史もあり極めて貧しい。子供達は観光客の姿を見ると、草花を束ねてこれを買って欲しいと殺到する。彼等は車が通り過ぎると間道を一目散にかけ上り、或いはかけ下って我々が到着する前から待ち受け、我々が通り過ぎると次の個所で待ち受けると言う事を何回も繰り返す。私達と前



花を売るタミールの子供
(ヌワラエリヤ)

同道した
A氏は、
「自分は来る度に彼等があまりにも可愛そうなので施しをするのだ」と言っ

て花は受け取らず金を与えていたのを思い出す。
紅茶製造工場の見学ではタミール人のおばさんが熱心に且高飛車に説明し、時々日本語で「わかりますか」と言った。ノートをとっていたBからノートを奪い彼女自分で書き込むという熱心さであった。学生達にはよい英語の練習になったと思う。

イギリス統治下の面影を残す(最近改築したので可成り近代化してしまったが)郵便局でこの国特有の動植物をデザインした切手を土産に購入しホテルへと向かう。グランドホテル(Grand Hotel)はイギリスの植民地時代の建物をそのまま保つべく残されたおこなホテルである。ここでのディナーはバイキング形式ではあったが実に美味で、特にAは感激して何回も席を立った。私が何よりも感心した事は、私が十数年前に何回か泊まった事を数名のスタッフが覚えていた事で、とりわけチーフはその時に坐った私の席と飲物迄言いあてるのはただ

ただ感心した。夜は冷え込み、ストーブにかじりつきながらシャツを何枚も重ねて寝た。

八月二十七日(火曜日)

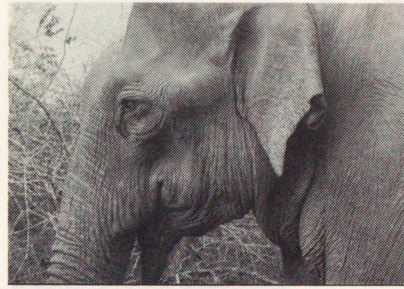
5時30分起床。8時に出発。セイロン銀行で換金。ここで一つトラブルが起こる。Pが手持ちトラベラーズチェックすべてにサインをして提出してしまった。幸いK氏がセイロンバンクのチーフセクリティのため途中でこれを取り戻し事なきを得たが、チェックは必要な時にサインをする事になっている事を考えると、Pはその後これらのチェックをどう処理しただろうか。言葉の通じないと言う事はいやは多くの危険を伴うものだと痛感した次第。

バラで有名なハクガラ庭園(Hakugara Gardens)を見学後、山が三重に層をなして展望出来るエラ(Ella)で小休止し、一路動物保護区のあるヤラ(Yala)を目ざし山を下る。午後6時ヤラに近接した町ティサマハラマ(Tissamaharama)に到着、レストハウスに一泊する。

八月二十八日(水曜日)

3時15分起床、朝食抜きで5時出発、ルフヌ(Ruhunu)俗称ヤラ動物保護区へと向う。6時にゲートを開く。先ず驚いた事は折から乾期に遭遇していたと言え、過去数回の見学期に無数に見られた野生動物の姿が殆んど見られない。ジープを進める内に池のほとりに出、ここで水牛(Buffalo)、オオトカゲ(Iguana)、ワニ(Crocodile)、パロット(Parrot)、クロトキ(Black

Ibis)、シユバンクロウ (Painted Stork) 等に遭遇した。ジャッカル (Jackal)、カワセウ (King Fisher) 等は水辺をはなれた樹間にも散見され、クジャク (Pea Cock) と スポットデイヤ (Spot Deer) は可成り多く見られた。象は夕刻しか出現しないと云う事で、一応宿舎であるヤラ・サフアリ・ビーチホテル (Yala Safari Beach Hotel) で小休止し、再び3時に保護区へと向かう。さてどうであろう。早朝には全く姿を見せなかった野生象が次々と現われ、私達が目撃しただけでも30頭を越えていた。その内群を離れた巨大な1頭が私達のジープの僅か数米前に現われ、警戒姿勢に耳を左右に広くひろげながら次第に近づいて来た。ジープの前席に位置した私には次第に巨大な



2mにせまった巨大象の横顔

顔が近づき、ジープの前1~2mに近づいた時には、思わず恐怖のため顔をそむけてしまった。巨象はおもむろにジープのすぐ横を通り1度ふり返ってから樹間へと姿を消した。さて、肝心な野鶏の姿は殆んど見られない。止むなく明朝再び来る事にしてホテルに戻る。

八月二十九日 (木曜日)
4時起床、5時45分出発。今日は野鶏のみを対象としてコースを選ぶ。ジープに同乗した案内のレンジャー (Ranger) が一生懸命にさがしてくれ、一応10羽以上を目撃したがすぐに樹間へと姿を消し、とても満足な写真撮影など出来ない状態であった。
見学後監督官 (Warden) と会い野鶏の棲息状況をきいてみた。彼等はその数は減少していないと云うが、今迄のゲートを入ると途端にセイロン野鶏が黄金色のベルトを持った冠を日光にキラキラと反射させ、無数のクジャクが尾をひろげてジスプレーを実施している姿を目撃して来た私だけに、この国の保護区もずい分荒れてしまったと淋しく思った次第である。

昼食後ヤラを後にし途中ゴール (Goal) でかつてオランダ人が築いたと言われる砦を見学後、北上してリゾート地ヒツカドワ (Hikkadwa) のコラル・ガーデンホテル (Coral Gardens Hotel) に到着したのは7時30分頃であった。

八月三十日 (金曜日)
7時起床。調査も一応終わったので、学生達はK氏、R氏と海水浴に。小生は休養。昼食にK、R両氏を招待し、午後は学生達は再び海に、小生は蝶の採集に。夕食は当地に嫁いだR氏の義妹のお宅に招かれスリランカ・カレーを御馳走になる。1時30分就寝。

八月三十一日 (土曜日)

6時起床、7時に朝食。一路コロンボへと向かう。先ずこの国での土産の一つマスク (Mask) の購入に。私はいちはやく極く小さいのを20個近く購入して小休止。K氏はこれを見て「あなたは馴れているから早くきまりますね」と笑う。学生達はこれは誰に、あれは誰にと大・中さまざまなマスクの選出に余念がない。

次はバティック (Batik) の店、私は土産購入の一覧表をみながらチェック。更に学生達の要望で皮のバッグを求めてマーケットに。

夕刻近くコロンボのデヒワラ動物園 (Dehiwala Zoo) に着き、園長 Mr. Brady Fernando と会う。かつては若き日のチャールストン・ヘストンを連想させたフェルナンドもずい分年をとったものだった、自分の事を忘れ感心する。名物のエレファントショーを見物後園内を案内してもらったが、私が過去何回か送った日本鶏の姿は既になく、セイロン野鶏も僅かに数羽が飼育されているのみで、これではとても交換どころではないと断念せざるを得なかった。

夜はかつて英国時代の面影を止めていたタブロベーン (Taprobene) から新装改築したグランドオリエンタルホテル (Grand Oriental Hotel) に宿泊。ここでも昔馴染みのホテルのボーイと会う。1時就寝。

九月一日 (日曜日)

7時に起床。いよいよスリランカ最後の日がやって来

た。先ずこの国の特産「寶石店」に寄り家族への土産を購入。次いでK氏の自宅へと車を進める。かつて十数年前私の膝の上で写真を撮った彼の息子達は20才以上の立派な青年に、そして娘は驚く様な美人へと成長していた。夕食を御馳走になり、一路空港に。可成りきびしい荷物チェックを受けた後に、23時10分、日本へと旅立った。この旅行を通じ、私は歴史の流れ、そしてそれに伴う進展を破壊の恐ろしさをまざまざと感じた。日本ではジャーナリズムがスリランカに対して危険のみを強調しているため、現地には日本からの旅行者が殆んど見当たらなかったが、一方西欧からは多くの旅行者がこの国に残された美しい自然に接するために訪れている。スリランカのカレーも予期に反して美味であり、一同南国の美しさを満喫し楽しい旅を続けられたのは大なる収穫であった。

DNAを用いた細菌の分類

家畜衛生学研究室 渡邊 忠 男

細菌を分類するための指標として、その形態、酵素活性等に基づく生物学的性状、菌体その他の化学分析による化学分類学的性状などの細菌の表現性状を分類指標とするものと、核酸を用いた遺伝子レベルでの分類指標(遺伝分類学的性状)がある。表現性状での分類では、各性状の重要度が分類群ごとに異なり、評価法や試験項目の選択が必要である。

近年、核酸(DNAおよびRNA)を用いた遺伝学的研究を応用することにより細菌分類学に多大な成果が得られるようになった。

DNA(デオキシリボ核酸)は、細胞の核内になって核タンパクとして染色体を形成しており、生物の生命の源である遺伝情報を保持・発現する役割を担っている物質であり、生物なら全てが持つ生命体の設計図のようなものである。

DNAの基本構造(図1)は、リン酸と五炭糖(デオキシリボース)と塩基が結合したヌクレオチドと呼ばれる基本単位からなっており、これが隣接する五炭糖とリン酸が連結していき、長いポリヌクレオチドの鎖となつていく。(詳細についての解説は省略する)

細菌のGC含量は、25%~75%と幅広く分布しているが、1つの菌種のGC含量は誤差を含めて2%前後の狭い範囲に分布しているのでGC含量を調べることにより未知の菌株の属または種を推定することが可能であり分類同定の指標となることから、現在では菌種の記載の際にはGC含量を加えることが必須となっている。

しかしながら、菌のGC含量は菌種の類似度を推定する重要な因子ではあるものの、GC含量が同じ菌種同士であってもDNAの塩基配列が同じであるという保証は全くなく、近縁種であることの証拠では決していない。

DNAレベルで近縁であることは、DNA-DNA相同性で証明される。1987年の国際細菌分類命名委員会の特設委員会の見解ではDNA-DNA相同性は、DNAの全塩基配列を推定する最も有効な手段として位置づけられており、その重要性が増してきている。

細菌の分類学上の種の提案について、上記委員会は、70%以上のDNA-DNA相同性がある菌株を同一菌種とするとしている。

DNAの塩基配列の相同性を求めるためにハイブリダイゼーションが行われる。DNA-DNAハイブリダイ

ている。さらにこの長い鎖が2本向かい合い、互いの塩基がそれぞれ水素結合で対合し、全体として右巻きらせん構造をしめしている。これをDNAの2重らせん構造(図2)という。

DNAの塩基は4種類あり、プリン塩基としてアデニン(A)とグアニン(G)、ピリミジン塩基としてチミン(T)とシトシン(C)があり、これらの塩基は対合が空間的にきまつており、AはTに、GはCにそれぞれ水素結合する。

生物体の遺伝情報は、このDNA塩基の配列順序として保存されていることがはっきりしており、塩基配列は各個体独自のものになっており、この点を追究することにより開発されたのが、最近マスコミなどで話題となっている犯罪捜査の最前線に登場した「DNA鑑定」と云われる個人識別法である。

DNAを用いた遺伝学的研究で最初に細菌分類学上の意義が認められたのが、DNAの全塩基量に対するグアニンとシトシンとの合計量の比、すなわちGC含量である。DNAは二重らせん構造で、AにはT、GにはCがそれぞれ対合しているのでAとT、GとCはそれぞれ等モル数ずつ存在する。従って、どちらか一方のペアの全体に対するモル%を示すことによりDNA4塩基の個々の組成がわかることになり、これをGC含量としてGとCの合計のモル%で現している。

GC含量の測定には、吸光度の変化を測定するTm法

ゼーションは、元来2本鎖であるDNAをイオン強度が低い条件でアルカリあるいは加熱により水素結合をとり1本鎖にした後、これを適切な条件のもとに置くと、相補的な塩基配列のもの同士(AとT、GとC)が再び水素結合し、2本鎖を形成するので、再結合させたときの割合をホモものを100%として、ヘテロのものがその何%に当たるかを算出して、両菌株間のDNA相同値とするもので、菌種間の遺伝的類似性が数値として明確に示される方法である。

定量的にDNA-DNAハイブリダイゼーションを行うときには2本鎖を形成したDNAを定量するために、予め片方の1本鎖をDNAを標識しておかなければならない。DNAの標識にはアイソトープをDNAに取り込ませる方法、ビオチン標識した塩基をDNAに取り込ませる方法、光活性基を持ったビオチン(フォトビオチン)をDNAと混合し照射するだけで標識する方法その他が行われている。現在では、フォトビオチンが一般的に普及している。

ハイブリダイゼーションの方法には、非標識1本鎖DNAをニトロセルロース膜に固定して行うメンブランフィルター法、マイクロプレートに1本鎖DNAを固定して行うマイクロプレートハイブリダイゼーション法および固定せずに液体の中で行うフリー・ソリューション法があげられる。中でも、マイクロプレートを用いたハイブリダイゼーション法は、最も簡便で多検体の処理が

短時間でできるなどの利点から今後さらに普及するものと思われる。(方法についての解説は省略する)

細菌の分類は、その最小単位である種から上位の分類にまとめていく階層分類で進められている。これまでは表現形質に基づき、主観的に種、属、科、目、綱の階層が決定されてきたが、時代とともに、あるいは分析手段の進歩とともに絶えず変化してきた。

表現形質を重視した分類から、情報高分子、特に核酸(DNA、RNA)を重視したものに変わってきている。DNAやRNAが細菌分類学に利用されることに伴い、新しい分類が提案されてきたが、これらの新しい分類は、表現形質を利用して確立されてきた分類とは一致しない場合が見られ、この矛盾を無視することが出来なくなってきた。それらの矛盾を調整するために、国際細菌分類命名委員会の特別委員会では「完全なDNAの塩基配列の決定に基づき、それを反映した分類が理想的である」としているものの、現在までの技術では、この情報高分子を完全に解析するまでには至っていない。

細菌分類学は時代とともに、その分析手段の進歩とともに絶えず変化していくものであり、決して普遍的なものではないので、細菌分類学の流れの中で、新しい、より正確で簡便な技術を利用していくことが、その発展に寄与するものと思われる。

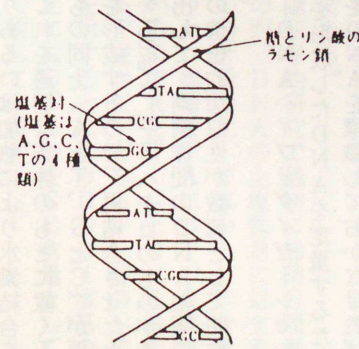
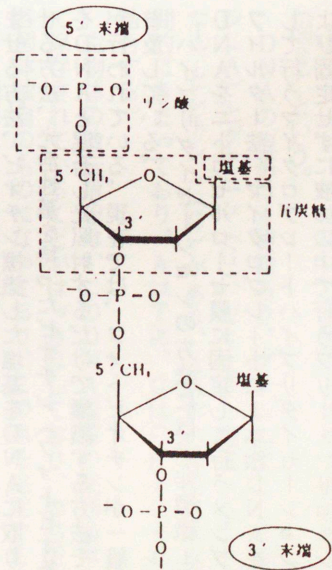
畜産経営とパソコン利用

畜産経営学研究室 講師 石岡 宏 司

一、はじめに

近年、日本の農業分野においてコンピュータ利用が大変盛んになっている。特にパーソナルコンピュータ(以下パソコン)は低価格化が進み、まさに個人で所有することが可能となっており、大型汎用機のように専門的な知識がなくても操作可能な機械として普及している。パソコンの高性能化も急速に図られ、三十二bitパソコンに主流が移りつつある現在、その処理能力はかつてのオフイスコンピュータをも上回ると言われる。大容量の情報にも十二分に対応できるまでのレベルに到達しており、畜産農家への導入も次第に増えている。農林水産省統計情報部が一九八九年三月に発表した「農業経営におけるパーソナルコンピュータの利用」によると一九八八年九月〜十一月現在の導入台数は約三千四百台で、利用部門別割合は酪農二十三・三%、肉用牛四・二%、養豚十・三%、養鶏四・八%となっている。

一九八〇年代の初期に普及し始めた十六bitパソコンは、当時の八bitパソコンと比較すると驚異的とも言える機能を持っていたが、現在の三十二bitパソコンと比べると、と



んでもない代物であった。クロック数は五MHzで、標準メモリー数は百二十八kb、現在では五インチか三・五インチのフロッピーディスクドライブが内蔵されているのが常識となっているが、別売りの八インチ外付フロッピーディスクドライブが必要であった。さらに、漢字処理は漢字ROMボードがオプションで別に購入しなければ処理できず、漢字変換は二コード入力による単漢字変換であった。それでも、半角のカタカナ、英字しか処理できなかった八bitパソコンと比べると全角文字の漢字処理ができるパソコンとして絢爛豪華に光輝いていた。しかし、アプリケーションソフトはほとんど無く、BASIC言語をマスターして自分で必要なソフトを作成しなければ十分に活用できなかった。

二、パソコン導入の意義

ところで、「コンピュータ、ソフトが無ければただの箱」とよく言われるが、パソコンを使用する上で必要とされるものはハードウェア(以下ハード)とソフトウェア(以下ソフト)であるが、これだけではパソコンを動かすことは出来ない。パソコンは、情報(データ)を入力して各種の処理をおこなない、その結果を活用していくのであるから、情報(データ)のない所にはパソコン活用は有り得ない。

畜産経営は、他の部門と比べて高度で多岐にわたる複雑な技術が生産活動の場で必要とされる上に、その生産

過程は長い期間を要するために、多額の投資が強いられる。また、経営内外から発生する農業経営情報はその種類が多く広範囲にわたるが、主なものとしては飼料計算、個体・鶏群管理、経営管理・分析、生産管理・分析、財務管理・分析、衛生防疫管理、作業日程管理、市況等があげられる。これら膨大な情報量を一定の精度をもたせて記録するだけでも大変な作業量になる上に、これを整理、集計、分析処理し、経営改善のために生かしてゆくには、生産現場の作業も担う経営者にとってはかなりの負担になる。さらに、これらのデータ活用は即時即応性が求められるものが多い。これらの点において、パソコンの持つ特徴である迅速性、正確性、大量性等の機能が非常に有効に働き、畜産経営における一種の新しい農機具として十分に貢献できる能力を持っている。したがって、情報量、種類が豊富な畜産経営ほどパソコン利用に適しているものはない。

わが国の農業分野における電算処理化は畜産部門、中でも採卵養鶏経営で最も早く取組まれた。一九八二年に東京農業大学農業情報処理研究会によって採卵鶏飼養羽数規模五万羽以上の八十農場に対して実施されたアンケート調査で、コンピュータ導入に対処する①導入の検討の有無、②今後のコンピュータ導入計画について、③コンピュータに投資する最大費用についての考え方、④コンピュータの知識や利用方法を知りたいかどうかの意見を求めたところ、③十農場から回答があった。なお、こ

の内既にコンピュータを利用していたのは十四農場、十六農場が未利用であった。この当時は、現在のように実用的なパソコンも市販ソフトも無く、各経営が高価なオフィスコンピュータを購入し、独自のオーダーメイドソフトの開発に多額の費用をかけていた。アンケート結果は既にコンピュータに対する認識が使用農場と未使用農場では大きく隔たっていた。未使用農場はコンピュータ利用に対して消極的な姿勢を示していたが、使用農場ではコンピュータの持っている有効性、可能性を十分理解しており、さらに効果的な活用を図っていく上での投資、学習意欲等に非常に積極的な姿勢を示していた。このような状況を産み出したのは、養鶏の経営環境が非常に厳しくなると予想されたために先駆的な経営が生残りをかけて、コンピュータを利用してより迅速に的確な経営判断を下さざるを得なかったためである。今日、養鶏経営を始めとして養豚、酪農、肉牛経営においてもパソコンを用いた経営管理の必要性が認識されてきたということは、経営環境の悪化に伴う経営体質の改善、強化が強く求められていることに他ならない。

畜産経営が記録、収集するデータ数、項目は畜産、経営形態、規模の違いによって大きな相違が生じてくる。したがって、これらの違いによって管理項目、データ数等の処理量が異なるために使用されるソフトにも違いが生じてくる。さらに、市販の畜産経営管理用ソフトは標準的な経営を想定して作成されているため、個々の経営

に完全に適している訳ではない。ソフトの内容に経営を合わせることはできないので、不足する処理項目についてはワープロ、データベース、スプレッドシート、図形処理用ソフトを使って、独自の管理フォームを作成することも必要になる。とくに、パソコン、ソフトに習熟した経営者はこれらの一般的なソフトで作成した自らの経営に適した管理フォームを利用することで専用ソフトを使用しなくてもかなりの処理が可能となる。さらに、従来の手計算ではデータを記録、収集しても処理が不可能であったり、可能であっても結果が出るまでに時間がかかり過ぎたり、繁雑過ぎるために実行できなかったような処理がパソコンを使用することで容易となるので、生産性向上、経営合理化、効率化が一層適確なものとなり、改善速度の向上が図られることになる。

三、パソコン複式農業簿記

パソコンの一般的な使い方としては、①ワードプロセッサによる文書作成、②スプレッドシート(表計算)による計数処理、③グラフ等の作成をおこなう図形処理、④データベース処理、⑤パソコン通信等が上げられるが、複式農業簿記を事例として経営管理用ソフトの説明をする。このような専用ソフトはワープロ、データベース、スプレッドシート、図形処理用ソフトの特定部分の機能を組合せて作成されているとも言える。

(一) 記帳作業手順

複式農業簿記の記帳とその結果を利用した経営分析についてパソコンを利用した場合と従来の方法を比較すると、手作業の記帳は①財産台帳の作成、②期首の貸借対照表作成、③開始仕訳、④日常の取引仕訳、⑤元帳転記、⑥整理前試算表作成、⑦決算整理、⑧決算仕訳、⑨元帳転記、⑩整理後試算表作成、⑪清算表作成、⑫各目勘定締切、⑬集合損益勘定作成、⑭実在勘定締切、⑮繰越試算表作成、⑯損益計算書作成、⑰期末の貸借対照表作成の順に作業が進められた後に、この結果を用いて経営分析計算をおこなう。

パソコンを利用した記帳処理が従来と大きく相違する点は、①仕訳作業の自動化による軽減化、②計算、転記、集計、並換え作業の省略化、③各種帳票の自動作成、印刷のリアルタイム化、④経営分析計算の自動化である。

(二) 自動仕訳機能

仕訳作業を自動化するためには、事前に資産・負債・資本・費用・収益の各勘定科目、補助科目をコード番号を付けてソフトに登録する。さらに、摘要欄の摘要文と関連勘定科目名をコード番号を付けて登録する。

例えば、牛乳を掛売する場合はコード番号「31」摘要文「牛乳掛売り」として借方にコード番号「20」勘定科目名「売掛金」、貸方にコード番号「400」勘定科目名「牛乳販売」等のように日常的に起こり得る取引を借方、貸方の勘定科目と関連づけて多数一括登録しておく。

摘要辞書登録例

コード	適用文	コード	借方	コード	貸方
31	牛乳掛売り	120	売掛金	400	牛乳販売
30	牛乳現金販売	100	現金	400	牛乳販売

仕訳作業は、伝票番号、取引日を入力した後、ポップアップメニューの中から関連した摘要文登録を参考にして「31」を摘要文のコード番号欄に入力する。「31」を選択すると自動仕訳機能により入力画面の借方欄に「200売掛金」、貸方欄に「400牛乳売上」と勘定科目名が自動的に表示される。あとは金額欄に金額を打込むだけである。摘要文を登録しておらず自動仕訳ができない場合でも、仕訳作業時には必要事項が常時画面表示され、コード入力が可能となるので処理作業の大幅軽減が図れる。

混合取引の場合、借方、貸方の金額が一致しないまま伝票入力を終了しようとした場合には「借方科目の合計金額と貸方科目の合計金額が一致しません。」とコメントが表示されて以後の入力作業はストップし、借方、貸方金額欄の入力ミスもチェックしてくれる。データの原始入力作業さえ間違えなければ、整理前試算表作成まではデータ入力後直ちに完了する。決算整理事項についても

例えば減価償却費の計算は、償却資産の導入時に償却方法、償却率、耐用年数、残存率等を登録しておけば、期中に大修理がない限りは毎年の償却額は自動的に計算さ

れており、その結果を入力すればよい。

(三) 相違点

複式農業簿記の各種帳表類の機能は①記帳手続きを間違わずスムーズに行うために必要とされる帳表類、②その記帳結果の正否を検証するために必要とされる帳表類、③経営成果を表すのに必要とされる帳表類の三つに大別されるが、機能が重複している帳表もある。

手書き記帳では計算、転記、集計、並換え、作表作業が常に付随している。これらの作業では人為的ミスが一番発生しやすく、後にミスの発見、修正処置に多大な労力を要する。しかし、これらの作業をパソコンに置換えると人為的ミスの発生は無くなる。したがって、試算表のもっていた重要な役割のひとつであったチェック機能は不必要となる。また、決算結果だけが目的ならば元帳、整理試算表、精算表、集合損益勘定、繰越試算表等も不要になる。さらに、各種の帳票作成、印刷作業もパソコンが即時即応で処理してくれるのでデータ処理のリアルタイム化が可能となり、経営が必要とする処理結果をいつでも瞬時に取り出すことが可能となる。

(四) 導入にあたっての留意点

複式簿記を修得するにあたり最初に覚えなければならぬ仕訳の原理原則、処理作業の複雑な計算、転記、集計、並換え等がパソコンを利用することによってかなり自動化され、誰でも利用しやすくなりつつある。しかし、パソコン操作も複式簿記帳も初めてという人が両方を

同時平行的に修得していくのは、かなりの時間と努力を要するであろう。まず、パソコン、フロッピーディスク等の取扱方法を知る必要がある。次に、ソフトの操作方法に習熟すると同時に、複式簿記の基本を知らなければソフトを走らせる上で必要になる事前の各種登録も正確にできず、自動仕訳機能も活用できない。たとえ、両者をよく知っている人に初期登録等のセットアップ作業をやってもなかったとしても複式簿記に関する知識がなければ決算までは実行できないであろう。したがって、パソコンを利用したからといって複式簿記を全く知らずに記帳するのは困難であり、複式簿記の修得も必要になる。

また、複式簿記の知識を十分に持ち、長年記帳している人でも新しいソフトを利用する時は、従来の手作業による処理をパソコン、ソフトに十分習熟するまでは同時平行的におこなった方がよい。フロッピーに収められたデータはちょっとした不注意、操作ミスから簡単に破壊され、取返ししつけないことになる。ソフトは再購入が可能であるが、自分で入力したデータはどこにも売っていない。操作に習熟した後もデータフロッピーは必ず二枚作成するように心掛けるべきである。

(五) パソコン簿記を利用する際の経営分析

複式簿記の狭義の記帳目的は経営成果の把握にあるが、その成果を利用した経営分析にまで記帳目的を広げ、経営改善にも活用しようとする場合、経営分析機能を持った複式簿記ソフトを用いることが望ましい。入力結果を

直接利用することにより、成長性分析、前年対比分析、目標対比分析、貸借構成比分析、損益構成比分析、損益分岐点分析及び同シミュレーション分析、資金運用等、非常に多くの分析処理が随時可能となる。さらに、図形処理機能のあるソフトであれば成長性分析グラフ、損益分岐点分析の結果をグラフ表示することも可能となり、より一層理解が促進される。また、固定費、変動費、売上高を変化させることにより損益分岐点比率、経営安全率、純利益、売上差額がどのように変動するかシミュレーションも可能となる。費用の削減、あるいは売上高の増減によって利益がどのように変化していくかを予測できるためにより具体的な努力目標が設定できる。

おわりに

パソコンの進歩発展、機能強化は目覚ましいものがあり、この変化を「日進月歩」ではなく「分進時歩」、「秒進分歩」だと言う人もいるぐらい目にも止まらぬ速さで進められている。しかし、世の中何でもスイッチ・オンで動き出すオートメーション時代にあつて、パソコンをいち電気製品として見た場合、一般的電気製品と比べてこれ程まで多くの事を覚えなければならぬ電気製品は無い。逆の見方をすれば、パソコンはまだ製品として未完成、半製品だからこそ急いで完成品に仕上げる必要性に迫られており、「秒進分歩」の開発努力が続けられていると言えなくもない。

畜産農家のパソコン利用は、従来の手作業を電算処理に置換えて事務処理の省力化、効率化を図ろうとするもので、農作業の機械化、高能率な機械への買換えとさして変るものではない。また、コンピュータを「電子計算機」と訳していた時代もあったが、その機能的な側面から捉えると、各種情報を目的に応じて処理する電子的な「情報処理機」と考えた方が適切である。

参考文献

- 一、村瀬康治 ビジネスパソコン事始め アスキー出版 一九八八
- 二、新井 肇 複式農業簿記 全国農業会議 昭和六十二年
- 三、農業情報研究会監修 農業情報一九九〇コンピューター農業年鑑 富民協会 一九九〇
- 四、高倉 直、他 農業パソコン入門 農山漁村文化協会 一九九〇
- 五、谷岡康則 初めての人によくわかるパソコン 西東社 一九九〇
- 六、阿部亮耳 現代農業会計論 富民協会 一九八八
- 七、昭和五十七年度東京農業大学プロジェクト研究成果報告 東京農業大学総合研究所 一九八三
- 八、石岡宏司 酪農パソコン入門 酪農事情社 一九九一

同窓会だより

同窓会より

畜産学科同窓会

会長 伊 藤 澄 磨

畜産学科は、昭和二十八年に第一回の卒業生が世に出て以来、今日まですでに三十九回の卒業式が行なわれ、四千五百人以上の同窓生が、国の内外を問わず、畜産業界ならびに関連産業界においてそれぞれ活躍されておりま

す。我々の畜産学科は、房総半島のほぼ中央に位置する文字通り草深い茂原の里に呱呱の声を挙げて以来、丁度、四十周年を記念し、昭和六十三年十一月二十五日、港区六本木の国際文化会館において、北は北海道、南は九州、沖縄の各地から畜産学科卒業生が一堂に会し、盛大に同学科設立総会が開催され、「東京農業大学農学部畜産学科同窓会」が発足致しました。

本会は、会員相互の親睦をはかり、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的として設立され、四年目を迎えます。

この間

- 一、畜産学科（畜友会）への援助
- 二、新入会員、卒業祝賀会への援助
- 三、会員名簿追補発行
- 四、同窓会報の発行
- 五、総会および懇親会の開催

等の行事を行ってきました。在学学生諸君、卒業後は世界中の何処の郷に庵しても、ここ東京農業大学農学部畜産学科で学び成長された事を生涯の絆として各界で御活躍される事をお祈り致します。

ご卒業をお祝いして

東京農業大学畜産振興会

会長 渡 邊 誠 喜

古い言葉ですが、「蛍雪の功なりて」この度本学科をご卒業される皆様、ご卒業誠にお目で度く、心よりお祝い申し上げます。ここに畜産振興会を代表してご祝詞を申し上げます。

本畜産振興会は平成三年三月二十三日付にて、本学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻の学生の教育・学術研究の向上に資することを目的として発足致しました。主な事業は(一)学生への奨学金の貸与、(二)学生の海外研修に対する助成・補助、(三)優秀卒業論文の表彰などであり、発足して間もない事でもありますので、当分の間の事業としては前項目の事業のみかと存じます。

本会の発足に当りましては、畜産学科同窓会より基金としてご寄付を申し受け、また、平成二年末に逝去された江渡宗徳君(当時二年次生)のご遺族からご寄付を受けております。今後は本振興会の充実を計り、初期の目

的であります事業を完全実施出来る様に推進すべきと存じますが、本振興会の初めての事業として、次の優秀卒業論文を表彰致しました。受賞者の一層の発展を念じ度く存じます。

氏 名 近 藤 美 香

論文題目 中継の高温環境時における日内変動が
エネルギー代謝におよぼす影響

最後に卒業生の皆様の健康を祈念し、祝詞と致します。

集う学友

四年生の夏休み

家畜衛生学研究室四年 保 科 幸 広

『えっ? これだけしかないの?』

これが、八月一日から始まった家畜人工授精講習会の第一印象である。牛部門二十一名、豚部門七名、牛・豚共通部門四名という人数は、この講習会が始まって以来の少人数である。定員が各三十名で、修得していなければならぬ単位も多く、農家出身の学生が多いことから、この講習会には自分のような輩は参加できないと思っていた。が、いざフタをあけてみると、このように淋しいものであった。これは、受講を希望するのにもかかわらず、修得すべき単位が取れなく、やむを得ず断念する学生が多かったからである。また、これが今の時代の流れかも……といていた先生もいらっちゃった。しかし反面、徹底した講習が個人レベルで行われたのは、幸いである。

自分はこの講習会で牛・豚共通部門を選択した。どうせ取得するなら、という思いもあったが、金銭的・時間的にかんがりの負担がかかったのは事実である。これだけ

の金と時間があれば……。しかし、そんな余裕はまったく与えられなかった。そう、テスト、テストの連続であったからである。

朝九時集合、午後四時終了。これが九日間続く。

四年生になってから半年。特に朝が辛かった。寝ぼけ眼で講義を聞き、実験実習をする。帰宅してからその日の復習をする。この復習が結構重要で、これを怠ると翌日の講習に影響が出る。牛部門のときは人数も多いせいか、誤魔化すことも可能であったが、豚部門となるとそんな甘えは許されなかった。なにしろ七人しかいないのである。キッとM先生のメガネが光を放ち、カミナリが落ちる。たしか五日目だとおもうが、いつもの遊び虫がとうとう起き出して、その夜講習会のメンバーと徹マンをした。当然、強力な睡眠魔が彼らを襲う。M先生は一言、『夜遊びもいい加減にな……』笑ってはいしたが、その瞳は笑っていなかった。

無事、学内での講習会が終わり、八月十九日から二十七日まで、八泊九日の富士畜産農場での実習が始まる。

十九日当日。自分は朝六時に家を出た。楽しい講習会のおかげでこの夏休み、それらしいことも出来なかった。で、それじゃあ……とバイクで富士畜産農場まで行くことにした。友人のM君と富士インターで待ち合わせる。『白糸の滝』、『田貫湖』、等々。青空は澄み渡り、空気もうまい。ワイディングロードをカッ飛ばしながら、午後からはじまる講習会のことにはなるべく考えないようにし

た。

実習は始まってみると、結構楽しかった。学内の講習会の成果が活きてくる。しかし、テストが四日間で三回もあったのは閉口した（自分の場合は計六回！）

午前中実習、午後三時からテスト。このような過酷な状況において、活力剤（疲労源？）であったのが、夜の生活である。一・二年生の頃のような夜の講義はなく、自習といった形式であったので、自分たちはそれを大変有意義に使用してもらった。

ある者は酒を飲み、ある者は語り合い、またある者は廊下を駆けまわり、そしてある者はオバケ見学……。

みながそれぞれのスタイルで富士の夜を満喫していた。ただ一つ、M先生の足音に全神経を集中していた点を除いて（ウルサイと怒鳴られる為）。

八月二十三日。豚部門の講習が開始された。牛部門のメンバーを乗せたバスを見送ると七人しかいない同志は、広い広い農場でより大きな解放感にひたることができた。

講師は牛部門の佐藤先生とかわったS先生（仮名）。このS先生は自分の研究室のOBでもあり、卒論の指導教員でもあり、また、よき相談相手でもあった。

人数も少ないせい、牛部門の時より、一人一人に内容の濃い、高度な実習を受けることができた。そして、なによりも楽しく印象に残ったのは、実習でも講義でもなく、夜の団欒であった。

豚部門初日。S先生に教わった酒屋に、バイクで買い

出しにいった。夕食が済んで仲間が買ってきてくれた花火をおもいっきり堪能したのち、『休憩室』として使用している十二号室に集合する。七人で『UNO』をしているとS先生がやってきて、『勉強していると思ってる……』と、微笑みながら仲間に加わった。

S先生はこの富士山寮に泊まるのだという。

おもむろに酒宴となる。S先生の学生時代の話や、苦勞話、自分たちの将来のこと、夢、日本における畜産業の行く末（？）等々……。それはどんな講義よりも面白く、大変にためになるものだった。

翌晩、その酒宴の場はバーベキュー場に移された。酔いがまわって花火をする。そしてまた飲み、語る。

必然、午前午後の実習には熱がはいるが、しかしまた当然のことながら、テストの出来も良くない。自習の時間を削っているからである。S先生はそれでもにこやかに『がんばれ！』と言ってくれる。学生はそれに応えるために一生懸命に勉強する……。

自分はここに合宿実習の楽しさ、本当の先生と学生の関係というものを垣間見たような気がした。

実習を終え、帰りのバイクに乗り、自分の胸には、なにか一つのことをやり遂げ、大きな土産を貰ったような、なんだか暖かい気持ちで、この農大に帰ってきた。

そして八月二十八日。学内において総合テスト。自分をはじめ、共通部門を受講したメンバーは、みな『豚部門』について選択・回答、それぞれ満足のいく結果を出

畜産学科に入ってから

この一年間

一年 斉藤 睦

し、有資格者としての自覚を高めることができた。最後に、S先生、M先生、佐藤先生（何故かこれだけ実名）をはじめ、講義して下さった先生方、農場の先生方、実習生の皆さん、わがままな自分達を迷惑がらず最後まで懇切丁寧に指導して下さり、本当にありがとうございます。



自分が農大にはじめてきたのは、平成二年の十一月の終わり頃、推薦入学の試験を受験する為である。その時感じた印象は、緑が多くていい所だなあと思っただけであった。

そして夢がかなない合格する事が出来、四月の入学式をむかえた。着なれないスーツを着て、うれしいような不安なような気持ちで農大へむかった。学長松田藤四郎先生をきいてようやく自分も農大生の一員になったんだなあと思った事を今でも覚えている。はじめて出来た友達は沖縄県の人だった。その時やっぱり大学だなあと思っただ。その後色々な人達と友達になれたの言うまでもない。

畜産学科に入ったなあと感じたのはやっぱり八月の実習の時である。何事もはじめての経験だったのでちょっと不安だった。しかし大変だったけど、けっこう楽しかった。はじめて牛や豚にもさわる事が出来た。乳牛や肉牛一つにも色々な種類がある事を知った。そして現代の畜産に関する設備を見る事により感心もし、講義などを

受ける事によって今、畜産のかかえている問題を知ることが出来ちよっと考えさせられた。自分達が実習をおとずれた時ちよど牛と豚の出産があった。それを見る事によって生命の神秘、命の大切さなど改めて感動した。その後二ヶ月間の長い休みの後、十一月には農大の最大のイベントである収穫祭が行われた。それにはたくさん模擬店がでて、そしてみこしの展示、盛大なるステージ講演が行われ、何千人という人々が訪れた。自分もそれに参加する事が出来、とてもうれしく、感激した。畜産学科に入学して主な行事はこれくらいだったが、この他にもたくさん楽しい事があった。大学生になり生活も変わり、勉強方法もかわって大変な事はたくさんあった。しかしそれ以上にもっと大切な何かを得たような気がする。本当に畜産学科に入ってよかった。

研究室だより

平成二年度
畜産学科
卒業題目

その他の主な活動としては、月例ゼミナール、新入室員歓迎会、乳酸飲料製造実習、収穫祭の文化学術展、模擬店(ロースハム、スモークドチキン、プリン等の製造実習を通じて)への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会などがあり、こうした行事には素晴らしい団結力を発揮し活動しています。

畜産物利用学研究室

本研究室は、室長の山中良忠教授をはじめ、高橋強囀託教授、古川徳講師、松岡昭善講師、飯山禮文副手の5名の先生方の御指導のもとに、大学院生4名、4年次生21名、3年次生20名の室員がそれぞれ活発なる活動を行なっています。

- ◎ 研究テーマは大きく次の4つに分けられます。
 - ◎ 卵の細胞活性物質に関する研究
 - ◎ 乳酸菌の培養法とバイオテクノロジーに関する研究
 - ◎ 発酵乳製品の栄養生理的な作用に関する研究
 - ◎ 各種畜肉の種属特異的タンパク質の検索および栄養成分の比較に関する研究
- また、加工利用では、消費者に対して有効でよりソフトな食品の開発に取り組み、さらに加工所における実習を通じて製造設備・製造技術への理解を深めることにも努力しています。

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
188 008	石塚 祥文	骨髄の脾臓細胞活性化について	古川 松岡
188 012	伊藤 郁子	モツアレチーズ製造法に関する基礎的研究	古川 山中
188 014	井上 浩之	乳酸球菌のプロトプラスト融合法の研究	古川 高橋
188 020	榎本 隆司	発酵乳の発酵時間短縮に関する細菌学的研究	古川 高橋
188 026	尾形 絵美	バターの脂肪分解臭に関する細菌学的研究	高橋

f88 027	小川 秀幸	軟質チーズ製造に及ぼす山羊乳添加の影響	山中
f88 028	小熊 雄太	細胞融合法による乳酸菌の育種	古川
f88 029	落合 隆裕	可食性骨格筋の脂質組成	松岡
f88 038	河原 孝雄	ラクトフェリン経口投与による抗腫瘍性について	古川
f88 061	重野 優	植物繊維の添加がソーセージの品質に及ぼす影響	松岡
f88 069	滝口 隆右	乳酸桿菌のプロトプラスト融合法の研究	古川
f88 070	武田 祐一	チーズ促熟用乳酸菌スターターに関する研究	古川
f88 073	鳥越 昭博	免疫学的方法により肉種鑑別に関する研究	松岡
f88 082	野間 啓太	卵黄成分の細胞活性化について	山中 古川

畜産経営学研究室

当研究室は、新井教授、石岡講師、打越副手の指導のもと、四年生20名(うち2名は海外実習のため休学中)、三年生21名、二年生3名で構成されています。

我が研究室では、畜産における経営、経済の面を中心にパソコンによる統計処理、分析を行っています。

牛肉の輸入自由化が定着し、それにおける経済の状況、畜産農家の経営の変化等、「経営」における問題がより一層多くなってきました。この為、当研究室では自由化に対応していくための研究や、経営をさらに発展させる研究が進んでいます。3年生の夏季休業中には15日間の農家実習が義務付けられています。楽な仕事ではありませんが、畜産を学ぶ学生として、農家実習は欠かせないものです。又、普段の研究室の授業では、パソコン演習、経営学講義、経営分析等があり、その日の課題が終わるまで、夜遅くまで先生や先輩が熱心に指導しています。

パソコンや簿記は現在の農業経営分析に欠かせないものとなっております。当研究室も台数を増やし、又、パソコンソフト、図書や統計資料も完備しています。当研究室で学んだことは、将来、畜産農家を継ぐ学生はもちろん、就職する学生にとっても役立つものです。我々のヤル気次第で研究の成果も決まり、今後の畜産経営を発展させるといっても良いでしょう。

f88 088	原川 竜也	ラクトフェリンの生理活性	古川
f88 089	馬場 英典	免疫学的方法による近縁肉種の鑑別	松岡
f88 091	廣瀬 一茂	等電点電気泳動法による肉種鑑別	松岡
f88 103	松村 幸治	家禽肉の脂質組成	松岡
f88 110	宮田 剛	山羊肉の理科学的性状	山中
f88 111	見義 直子	ペットにみる現代人の考察	深沢
f88 112	武藤健一郎	活性乳酸菌粉末に関する研究	高橋
f88 607	武藤 敏正	乳酸菌多糖のインターロイキン-1及び6産生に関する研究	古川

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
f88 005	池田 昌英	乳雄牛肥育の経営分析	石岡
f88 051	小松 革瑞	酪農経営におけるパソコンの活用、特に複式農業簿記について	石岡
f88 055	佐伯 和久	畜犬の起源と社会的貢献性について	新井
f88 063	清水 健一	盲導犬の育成と視覚障害者の自立	新井
f88 095	藤田 俊郎	牛肉輸入自由化がわが国畜産に与える影響について	新井
f88 099	本田 勝也	熊本県における褐毛和種肥育牛生産の経営分析	石岡
f88 107	水島 正人	肉牛肥育における交雑種の生産と利用価値	石岡
f88 108	箕浦 英哉	酪農における土地利用の現状と今後の課題	新井

f88 120	吉田 和博	鹿児島県における和牛血統の変遷と評価	石岡
f88 122	吉原 幸夫	養豚経営の規模拡大に伴う経営設計	石岡
f89 301	石野 清治	酪農家の労働時間と労働条件	新井
f87 080	椎原 隆一	畜産公害対策の現状と課題	新井
f87 138	三谷 和司	農家の花嫁問題とその対策	新井
f87 145	森下 正道	肉牛生産の将来に関する繁殖農家の意向調査	石岡
f87 161	吉永 雅俊	牛肉に対する消費者の購買意識、特に自由化後の動向を中心に	新井

家畜生理学研究室

我が研究室は渡邊誠喜教授を室長として、津田恒之教授、半澤恵助手、研究員1名、大学院生2名、4年次生19

名、3年次生17名、2年次生2名より成り立ち、日々研究にいそしんでおります。
 研究テーマは主に左記の通りです。
 ◎家畜・家禽の内分泌生理に関する研究
 ◎家畜・家禽の代謝に関する生理遺伝学的研究
 ◎家畜・家禽の体液に関する免疫学並びに血清学的研究(含モノクロナール抗体)
 ◎家畜・家禽の細胞膜に関する研究
 ◎反芻家畜の消化生理に関する研究
 動物と接する機会が多いため、生命とは何かについて知ろうとする生理学本来の目的を、じかに体験し、研究の喜びを実感しております。
 年間の行事としては、新入室員歓迎会、富士畜産農場実験実習、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、定期総会、ゼミナール、談話会、ボーリング大会などがあります。
 個人がそれぞれの方針を掲げ、生理学の発展を目標として努力しております。

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
f88 003	天谷 浩子	ニホンウズラのIgGの単離とH・L鎖の分離について	渡邊

f88 003	井出 政志	綿羊における腎臓の糸球体濾過量及び食塊の消化管内通過速度の季節変動による光受容性ホルモンに関する基礎研究	津田
f88 018	上野 敬資	馬赤血球膜におけるアミノ酸輸送担体蛋白質の同定	渡邊
f88 024	岡 晃	ニホンウズラのT細胞及びB細胞に対する特異モノクローナル抗体の作製	渡邊
f88 033	金子 治	綿羊の咀嚼行動がルーメン内消化に及ぼす影響について	津田
f88 050	小林 光晴	綿羊における腎臓の糸球体濾過量及び食塊の消化管内通過速度の季節的変動による光受容性ホルモンに関する基礎的研究	津田
f88 052	小山 聡	ニホンウズラにおける真核細胞DNAの多型に関する研究―特にM13ファージDNAプローブによる―	渡邊

f88 054	齊藤 邦夫	ニホンウズラのMHCに対応するDNAプローブの作製	渡邊
f88 076	中村 孝	ニホンウズラのマクロファージにおける貧食能の系統間差異に関する研究	渡邊
f88 078	西尾 宗雄	ニホンウズラにおける真核DNAの多型に関する研究―特にMBファージDNAプローブによる―	渡邊
f88 084	橋本 裕樹	綿羊の反芻食塊量および粒度変化に関する研究	津田
f88 093	廣田 武司	軽種馬の赤血球膜浸透圧抵抗性ならびにハプトグロビンの個体変異に関する研究	津田
f88 102	松井 伸人	綿羊の唾液中へのチオシアン酸塩の排泄と、唾液分泌量に関する研究	津田

f88 121 吉田 春昭
ニワトリ・ニホンウズラの卵
卵中における卵白成分の電気
泳動的变化

f90 601 青木 大輔
ニホンウズラにおけるリンパ
球の幼若化反応の系統間差異
について

f90 604 中野 知美
ニホンウズラのT細胞及びB
細胞に対する特異モノクロー
ナル抗体の作製

f85 008 安部 陽一
ウズラ卵黄中抗体の利用につ
いて

家畜飼養学研究室

飼養学は畜産業界全般において、極めて重要な分野で
ある。

このため我が研究室では家畜飼養学の主な柱である家
畜栄養学、飼料学、家畜管理学を基礎にふまえ、杉村敬
一郎教授、亀岡暄一教授、伊藤澄磨助教授、栗原良雄助
教授を中心とした指導のもとに、家畜に対するアミノ酸

エネルギー代謝、サイレージ、牧草、飼養試験、飼育管
理等について種々の研究活動を行っている。研究室行事
としては、富士農場における畜産実習、並びに一般成分
分析演習等を行っている。また室員相互の親睦を計るた
めに収穫祭の文展、模擬店への参加、研修旅行、餅つき
大会等を行っている。

学
籍
番
号

氏 名

指導
教員

論文 題 目

f88 004 荒井 一秀
環境温度が子豚の生理諸元に
及ぼす影響

f88 006 石田 昌俊
成兔における給与飼料中の牧
草の長さがADF (NDF)
の消化、吸収に及ぼす影響

f88 007 石塚 聡
環境温度の相違が子豚の基礎
代謝量に及ぼす影響

f88 007 石橋 慶
精製タンパク質食に添加した
酵母由来画分の栄養学的効果

f88 010 伊坪佐用子
高温環境が子豚のエネルギー
代謝に及ぼす影響

f88 015 猪股 篤
リードカナリーグラス(一番
草)サイレージの品質に関す
る研究

f88 034 金子 康弘
中雛の高温環境時における日
内変動が蛋白質及びエネルギ
ーの蓄積に及ぼす影響

f88 042 菊池 弘光
リードカナリーグラス(三番
草)サイレージの品質に関す
る研究

f88 043 北爪 良和
各種飼料作物の硝酸態窒素含
有量に関する研究

f88 044 木村 泰子
低温環境が子豚のエネルギー
代謝に及ぼす影響

f88 053 近藤 美香
中雛の高温環境時における日
内変動がエネルギー代謝に及
ぼす影響

f88 065 杉山 修一
リードカナリーグラス(二番
草)サイレージの品質に関す
る研究

f88 081 野口 智子
環境温度の相違が中雛のエネ
ルギー代謝に及ぼす影響

f88 083 野和田従道
リードカナリーグラス(三番
草)の刈り取り時期と化学的
成分の動向に関する研究

f88 085 橋本 匡司
アミノ酸食に添加した酵母由
来画分の栄養学的効果

f88 090 平松 義行
リードカナリーグラス(一番
草)の刈り取り時期と化学的
成分の動向に関する研究

f88 106 水口 潔
リードカナリーグラス(二番
草)の刈り取り時期と化学的
成分の動向に関する研究

f88 114 森 浩志
農業金融について
金融自由化に向けての農協

f90 603 篠崎 奈美
食糞阻止時の首輪装着が幼児
の成長に及ぼす影響

家畜育種学研究室

家畜育種学とは動物の進化の方向を人間の必要とする方向に変更し、促進するための学問です。

当研究室では柴田寛三教授をはじめ、田中一栄教授、天野卓助教授の指導の下に古郡実験助手、大学院生4名、4年生10名、3年生21名で構成され、室員各自の自覚と互いの協力により、それぞれの目標に向かって頑張っています。

研究内容は家畜改良の基礎となる育種学、遺伝学、血清学、分子生物学的見地から広範囲にわたり、主なテーマとしては、電気泳動による血液蛋白型の研究・モノクローナル抗体を用いた赤血球抗原型に関する研究・組織適合性抗原遺伝子のDNA解析などが行われています。

研究室における日常の活動は、実験動物の飼養管理による家畜との接触や、毎週行われているゼミ、定例室員会、他に、卒論等の研究などが行なわれ、実験における問題点解決の為に熱心に討論されています。更に、研究活動は学内だけに止まらず、先生方は学会や研究の為に海外に出張されたり、また、学生も他大学および他研究機関に向いて研究を行なっています。

研究室における年間の主な行事としては新入生歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会などがあります。

なお、平成2年度の卒業論文の題目は次の通りです。

学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
f88 021	大石 知英	イノシシの血液蛋白多型に関する研究	田中
f88 046	黒木 一仁	モノクローナル抗体による水の血液型に関する研究	天野 吉田
f88 080	沼上 勝一	哺乳類子宮内における細胞増殖抑制物質の免疫化学的性状に関する研究	天野
f88 087	花田 浩二	ヤギのDNA多型に関する基礎的研究	天野
f88 113	本吉 保	血液蛋白型から見た水牛集団の遺伝的類縁関係に関する研究	天野
f88 115	諸岡 薫	重挽馬における血液蛋白型の遺伝子構成に関する研究	天野

f88 116 八木 重道 ウシ血液蛋白型の電気泳動的変異に関する研究 天野

f88 124 渡邊 真一 豚の血液蛋白型に関する研究 田中

f90 602 新井 美佐 馬の血液型に関する研究 天野

f90 608 渡辺 憲一 牛のDNA多型に関する基礎的研究 天野

f90 301 渋澤 麻実 無翼鶏と正常鶏における中足骨長と竜骨長の相対成長に関する研究 田中 平井

家畜衛生学研究室

本研究室は、東量三教授、近江弘明助教授、渡邊忠男講師の各先生の御指導のもと、大学院生1名、4年生21名、3年生20名によりなりたち、研究室活動を行っています。

研究室活動としては、室員各自希望する家畜、家禽別に、牛班、豚班、鶏班、実験動物班の4班に分かれ、各家畜、家禽に対し、主に次のような研究が行なわれています。

- ◎家畜、家禽の各種疾病に対する予防並びに診断に関する研究
 - ◎動物由来微生物の生理、生体に関する研究
 - ◎内部、外部寄生虫の生態並びに駆除に関する研究
 - ◎家畜、家禽の環境衛生に関する研究
- また、本学家畜診療所においても、一般外来動物の診療を中心に、各種の研究活動が行なわれています。その他研究室の活動内容は、年間行事を通して新入室員歓迎会、ソフトボール大会、収穫祭参加(文化芸術展、模擬店)、研修旅行、送別会、ゼミナール等があります。このような多面にわたる活動により、学生生活の充実と室員が一体となった活発な研究室活動を目指し、研究室在室中に一つでも多くの事を学びとるために、我々は日々努力しています。

学籍番号 氏名 論文題目 指導教員

f88 001 赤木 陽子 Actinomyces suisの分類学的研究・特にGC%および相対試験について 渡邊

f88 013 稲森 浩子 動物公園飼育下におけるレッサー・パンダの育児行動について 近江

188 017	上田 陽子	海産無脊椎動物中へのフグ毒の蓄積	渡邊	188 071	田中 知美	豚の扁桃からの Actinomycetes 属菌の分離と同定	渡邊 東
188 030	小野田哲夫	猫ノミに対する駆除法の検討	近江	188 072	寺田 桃子	皮膚疾患の病理組織学的観察	近江
188 036	河合 知子	類アジソン病罹患犬の臨床的観察	近江	188 074	中沢 恵子	乗用馬の管理衛生に関する研究・夏期における尿性状について	近江
188 037	川戸 信司	畜舎の環境衛生に関する研究・樹木による防暑対策について	近江 鈴木	188 077	永嶋 俊一	ES ₂ 実験感染雑菌に対する抗体物質の併用効果	渡邊 東
188 039	木内 宏行	鶏マイコプラズマ野外分離株の薬剤感受性について	渡邊 東	188 096	保科 幸広	豚の発育に伴う歯牙の組織学的研究	近江 鈴木
188 041	岸 利一	豚の発育に伴う歯牙の形態的観察	近江 鈴木	188 101	松井 公一	MS実験感染雑菌に対する抗体物質の併用効果	渡邊 東
188 064	白石 征	犬の歯牙並びに歯周病変部に由来する細菌・特に Actinomyces 様菌について	東 近江	188 104	松本 綾子	衛生害虫の駆除に関する研究	近江
188 066	鈴江 集	関東地域の牧野におけるササラダニの実態調査	近江 岡島	188 109	宮澤 勝典	野外におけるNDワクチネーションプログラムの検討	渡邊 西脇
				188 119	横井 巖	動物病原ウイルスの各種培養細胞における増殖性の比較	渡邊

家畜繁殖学研究室

190 605	長沖 幸弘	実験動物の吸入による急性毒性試験法の基礎的検討	東 近江	学籍番号	氏名	論文題目	指導教員
				188 032	金井 剛	種雄豚ならびに精子濃度の違いによる豚の体外受精成績について	門司 一戸
				188 035	印牧 暁	ウシ胚におけるタンパク質合成パターンの解析法の検討	門司 一戸
				188 047	桑原 啓暢	大利根牧場における競争馬の繁殖成績並びに選択方法	一戸
				188 048	河野 正	牛体外受精における精子受精能獲得方法の違いが受精率及び受精後の発生に及ぼす影響	門司 一戸
				188 056	佐伯 英昭	牛乳生産の季節性とその対策	新井 一戸
				188 057	酒井 孝吉	マウスの核移植における細胞核の融合と細胞質の活性化のタイミングが核の再構築に及ぼす影響	一戸 河野

我が家畜繁殖学研究室は、主任教授、一戸教授をはじめ、門司助教授、桑山助手の御指導の下、大学院生6名、四年生20名、三年生21名から構成されています。当研究室では、家畜・家禽の効率的な繁殖方法を追求し、繁殖生理に関する基礎的なものから、体外受精並びに、人工受精に至る実用的な面まで幅広い分野にわたる研究・実験を実施しています。具体的内容として、

- ◎生殖リズムとこれに対するホルモン関与
- ◎繁殖行動に対する内分泌的要因
- ◎精子並びに卵子の凍結保存
- ◎体外受精・核移植・受精卵移植の研究

これらを主に、高度の学理のみならず応用面についても追求を行っています。さらに、お互いの知識を交換することにより、各自の研究をより充実したものにするとともに、週一回のゼミナールを開いています。

また、我が研究室では、新入室員歓迎会、年2回のボーリング大会・収穫祭参加・卒業生送別会などにより、学生と教員の親睦を深め固い団結力で日夜頑張っています。

188 059	佐藤 洋志	日本ウズラの強制休産後における産卵率について	一戸
188 060	佐藤 靖弘	マウス除核未受精卵の体外受精によるAutogenic胚の作出	一戸
188 062	島田 聡	過排卵誘起による豚胚の回収成績とそれらの凍結保存法の検討	門司
188 067	瀬田 史	孵卵中におけるエストロジェンの投与がウズラの性行動に及ぼす影響	一戸
188 068	高好 朗弘	ストロー法によるミニチュア豚精液の凍結保存について	門司
188 075	中沢 剛	天然記念物柴犬における上位入賞犬の系統に関する調査	一戸
188 079	丹羽 恵	マウスの妊娠初期におけるストレスがその後の着床・妊娠・分娩に及ぼす影響	一戸

188 086	橋本 唯一	雌ホロホロ鳥における照明条件の差異が性成熟および産卵に及ぼす影響	一戸
188 092	広瀬 泰洋	牛体外受精卵の発生に及ぼす顆粒膜及び卵管上皮細胞との共培養の効果について	門司
188 097	堀 隆	雛の存在が母鶏の血中エストジオール濃度及び母性行動に及ぼす影響	一戸
188 117	山川 朋恵	牛体外受精卵の発生に及ぼす血清及びヘパリン添加の効果について	門司
188 123	米花 淑	社会的逸脱の形成のされ方	一戸
188 125	渡邊 由里	豚未成熟卵子の成熟・受精及び発生に及ぼす各種血清の影響	門司
190 606	幡野 由香	スナネズミの分娩日における血中・副腎中コルチコステロン濃度と産次との関係	一戸

収穫祭だより

創立百周年記念収穫祭

三年 相原 貴弘

今年の収穫祭は、東京農業大学創立百周年にあたり、私達学生にとって本当に良い思い出になった収穫祭でした。この収穫祭を、振り返ると、色々大変で私は、先輩に畜産学科統一本部統一委員長を、やってくれと言われた時は、本当に俺がやるのかよ!と思っていました。私としては、一年二年の時に家畜苑を手伝っていたので、家畜苑委員長の方が、仕事の内容などもわかっていたので、先輩に「家畜苑委員長なら私なりに出来るけど、統一委員長は無理ですよ」と言ったが、家畜苑委員長は、村山壮一君がやるから、統一委員長をやってくれと言われたので、何処まで出来るかわからないけど、ひきうけることにした。私達三年生には、畜友会の役員が一人もいないので、何をやらばいいのかわからなく、先輩に去年の話などを聞いて、仕事は会議だと聞いて、会議の日程などを調べておいた。統一委員長となり初めての会議では、百一回収穫祭テーマについての話し合いで、私は一言も

意見を言うことなく終わってしまった。何回かの会議に出席して行くうちに、他学科の委員長とも友達となり、自分の意見も出せる様になり、初めての会議に出席した時より、何か楽になった様な気分になれた。十月に入ると各学科の本部開きに毎日出席し挨拶をした。この時も少し緊張したが、畜産学科本部開きの日が近づくにつれ、挨拶には何を言おうか、毎日、考えてしまっていた。本部開き当日、色々考えた挨拶をまとめいざ本部開きが始まり挨拶で何を言っていたのかかわらないぐらいい緊張してしまっただけ。本部開きも無事に終わり、本格的な作業に入ってしまった。私達三年生は、今まで団結力が弱かったもので、各委員長や、先輩など何度も話し合いを持った。やはり、収穫祭が近づくにつれ、作業の進みぐらいいが気になってきた。畜産学科は、作業を4号館でこない、授業が終わると4号館に集まり作業を、夜遅くまで、全員で頑張っていた。収穫祭前夜は、全員徹夜で作業し、何とか間に合い無事収穫祭を迎えることになった。収穫祭四日間は、今までの忙しさがうその様に、あっけなく過ぎ去ってしまった。収穫祭が終わり私なりに、色々勉強になった一ヶ月であり、人の上に立つことの難しさを学んだ一ヶ月でありました。最後になりましたが、畜産学科統一本部に御協力してくださいました先生方、先輩方、本当にありがとうございました。

小さな自分をみつめて

畜産学科三年 前 田 博 史

研究室の代表で、自分が畜友会の宣伝隊に選ばれた。畜友会とは今まで関りがなく、活動・仕事内容など何も分らずに足を踏み入れたところが、「宣伝隊」であったのだ。言葉通り農大収穫祭を商店街、人ごみの中で宣伝、アピールするもので、自分の性格からして人前で大声を出し、走り巡ったりするのは決して得意なことじゃない。数日間宣伝活動を行なったが初日で土俵から降りたかった。ましてや前日に行なわれる会議は9時10時を越え、毎回終電間近であった。自分に回ってくる仕事が合わなく、半分以上投げやりであり、1分でも早く、その場から立ち去りたかった。そんな曖昧な気持ちで活動を進ませてきた。

最終日の「ファイアー・ストーム」の時がやって来た。あたりが暗くなり始め人影も減ってきた頃ファイアー・ストームの準備が進められ、各学科ごとに湧いてくる様子が現れ整列した。どこから来たのか不思議だった。ファイアー・ストームが進行し、自分の松明に火がともり、畜産学科の前を進行し、先輩・同輩・後輩が大きな拍子で迎えてくれた。今まで感じたことがなく、何だか妙に切なかった。考えてみれば今まで自己中心的に振舞ってきたことに恥じらいを感じ何だか息苦しかった。自分が

やってきたこと一つ一つに、いろんな迷惑をかけてしまったし、とても無責任だった。収穫祭が成功したと聞いて、成功したのだと思いつんでしまっただけだったのかも知れない。

来年も農大収穫祭は行なわれる。勿論宣伝隊も発足される。苦い顔して宣伝されたくはないだろう。自分が背負ってしまった体験は来年宣伝隊をやる人にもあまり味わせたたくない。アドバイスできる限りしてやりたいし、自分ができなかった分来年頑張るって欲しい。最後に面倒をみてくれた畜友会の人達に礼を言いたい。そして来年の宣伝隊長にも一言言いたい。

「頑張ってくれ！」

畜産大爆笑 '91

「テーマ」 「勢い」 より

二年 三 沢 英 希

「ダメだこりゃああ。」ニックネームは、「チック」と私、三沢英希は晴れて、創立百周年記念収穫祭畜産学科統一本部前夜祭・特別企画委員長に就任した。前夜祭、

野外劇、そして先生のご自慢大会、学生のご自慢大会、美人コンテスト、ミスター農大、ミス農大、さらに、そっくりさん大会と、以上八部門を担当し、これらを中心とした企画・進行が自分の仕事である。しかし昨年は会計を務めさせて頂いたが、まだ一年生であったためにお手伝い程度のことしか出来ず、しかも今年もまた副委員長と会計が一年生であるということで、自分のしかかる責任もかなり重く、苦勞は避けられないと覚悟を決めた。さて、時間が無いので早速仕事にとりかかった。まず、前夜祭の台本を作ることにした。前夜祭は、昨年「ドラえもん」だったので、今年も「おぼけのQ太郎」をやるという単純な設定でシナリオを書いていったが、ドリフターズもいいなと思ひ、「いかりや長介」を「剣の達人」という役で特別出演させるつもりでシナリオを書き上げた。が、しかし出来上がったシナリオは少々長いため、演技する時間の都合により手直しする必要となったので、最終的には劇出演者全員の力によって前夜祭のシナリオは完成に至った。こうして、他の部門の企画や練習、さらに大道具や小道具の作成と併行しながら前夜祭劇の練習は、夜中の十二時過ぎに行なわれて、それが毎晩のように続けられた。収穫祭が近づくとつれテンションは高まっていくのであるが、それに反して体調の方はかなり悪くなっていた。自分は自宅から二時間程かけて通学する自宅生であるため、収穫祭準備期間中は、学校や友人宅に泊まらせて頂いていたが、荷物整理と必要な物を持

ってくるために三週間ぶりに帰宅することになった。服は少々よれよれになっており、髪型は爆発した状態、ひげはもちろん剃っていないし、顔色はパープルフェイスに類はねずみのようにこけている。こんな姿を地下鉄千代田線の乃木坂や赤坂で降りする美しいお姉さんたちに、変な目で見られようとんだらうと、恥かしさを感じないくらい収穫祭に向けて集中していた。ところが帰宅してすぐ熱を出し「ダメだこりゃああ」と倒れてしまったのである。おそらく寝不足と疲勞のせいだろう。しかし、こんなことをしている暇なんてない。「さあ、学校へまいりましょう。学校へ出発！」という具合に、翌日、気分十分で学校に行ったのである。学校に着き、みんなの疲れきった顔を見て「おいっすう、元気がないなあ。」などと言っていたが、このセリフは自分に対して「頑張れよ」と言っているようなものであった。さて、完全にいかりや長介になりきってしまった、いかりやチックな三沢英希は、前夜祭の前日になってスランプになってしまったのである。劇の練習をすればする程に、間の悪さや、セリフの言いまわしや、その他こまかい所に気が付き過ぎるようになってしまったのだ。そんな時、統一副委員長であり、かつ、Qちゃん役である井出宗介の言葉はこうだった。「三沢、大切なのは勢いだよ。」そうだと確かにそうなのだ。昨年はシナリオ完成が前夜祭の二日前で、それから練習というやぶれかぶれの状態だった。こまかい所に気づくことよりも、ある程度開き直るぐらい

の勢いが必要なんだ。「勢い」。その一言で自分は、完全にスランプからの脱出に成功し、そして甦った。

さあ、いよいよ前夜祭の当日を迎えることになった。今までやって来たことを、一気にぶつける時が来た。

「六時四十分だよ！ おばけのQ太郎」。この掛け声で幕は開いた。「ようし、やるぞー」。いかりや長介は顔を真っ黒にして、トリードマークのたらこ唇を付け、剣の達人に。Qちゃんは、はりがねで作った髪の毛三本が、劇中に取り入れそうになるというアクシデント。どこから見てもバッチリ目立つ蛍光ピンクのドロロンパ。完璧にバカ殿様に変身した志村けん。正ちゃんも、バカ兄弟仲本工事も、高木ブー雷様も、そして犬もみんな本物そっくりのフルチューンの化粧で、一生懸命になって演技をした。「ダメだこりゃあぁ。」のセリフで演技を終え結果を待った。結果はなんとユーモア賞。二年連続のユーモア賞だ。劇の内容は、おばけのQ太郎というよりも、八時だよ全員集合になってしまったので、「おばけのQ太郎」は、「おまけのQ太郎」であった。しかし、みんなに勢いを与えてくれた主役はQちゃんであったのだから、やっぱり、この劇の主役は「おばけのQ太郎」なのだ。

さて、その勢いというものは、翌日にも、また翌々日にも好影響を及ぼした。その証しに、美人コンテストの前日に結成された、リンダ山本とそのバックダンサーズは、徹夜で振り付けの練習をして、ふらふらの状態でステージに望んだが、結果はなんと準優勝に輝いた。リン

ダ山本は、素晴らしい好演だった。この勢いはもう、どうにもとまらないのであった。

そして、十一月三日、前夜祭・特別企画は、全ての部門を終了した。野外特企ステージでの閉会式の後、ステージの照明が暗くなった瞬間、なぜだか急に目頭が熱くなったことを今、思い出す。「やったぞ。」「やり遂げたぞ。」という充実感と満足感に浸った涙を流したことを……。今、改めて、協力してくれたみんなの熱い心が、自分に大きくそして素晴らしい感動を与えてくれたのであると実感しています。自分一人では、これだけ多くのことを絶対にやり遂げられなかったはずだ。みんなの協力と、そして、勢いがない

最後は、この場を借りて、様々なかたちで御支援・御指導をして頂いた先生方、特に、顧問を務めて下さった渡邊忠男先生、先生のご自慢大会に出て下さった半澤先生、飯山先生、そして数々の御協力をして頂



をかりて、感謝の言葉を送ります

「ありがとうございました。」

今でもあの日々の事が、走馬灯の様に、脳裏を巡る。そして、当日のあの感動は、これからも、ずっと忘れる事はないだろう。

心から・・・

三年 荻根 孝範

体育祭委員長として活動しはじめてからの一ヶ月間、あの時期は、本当に充実していた。盲目の状態から出発して、あれ程の大役を良くこなせたものと、自分にビツクリしている位である。ましてや、創立百周年記念というおまけつきで……。

しかし、これらは全て、自分だけの力ではなく、自分を支えてくれた人なしには、語れないだろう。右も左も分からない時に、時間を惜しまずに、全てを教えてください。先輩方。四号館で夜遅くまで一緒に仕事をした同級生、下級生の仲間達。加えて、未熟であった自分に様々なアドバイスをしてくださった、門司先生、伊藤先生。この場

「百周年」記念 家畜苑

三年 村山 壮一

本年度の収穫祭は、東京農業大学創立百周年記念収穫祭という、昨年度までとは違った意味での響きを感じるものでした。（一言で百周年といってしまうえばそれまでですが、農大自身が歩んできた今までの色々な足跡を振り返ってみると大変なものです。）その大きな節目の年度の収穫祭での、畜産学科統一本部の家畜苑の委員長を任せられた私は、すごく不安でした。昨年までは、先輩方の下での作業で言われた通りに動いていけば済んでいたのですが、それを今年は、自分自身が皆をまとめて指示し進めていかなくてはならなかったからです。そのうえ、自分達の学年には畜友会というものに携わっている人が一人も存在せず、二年生の後輩達に任せっきりという具合

の状態だったので。

そのような不安ばかりが頭の中を駆け巡ってはかりいりましたが、任された以上、逃げだすわけにはいかず、自分自身やるだけではないから一杯頑張ろうと思ひ、三年の同輩数人と取り組み始めました。

しかし、何をすることも「百周年」という言葉が私の頭の中に浮かんでくっきりと、計画などをたてる時にかなり障害になり困ってしまうこともしばしばありました。その中の一つには、今までとは違った種類の動物の導入展示でした。しかし、これには数多くの問題が生じ、実現できませんでした。振り返ってみるとこの考えは、ただ目先のものを変えたい（マンネリ化の打破）という、浅はかなものであり、そのことの本質というものを真剣には考えていなかったように感じています。

それから、この「百周年」という言葉に惑わされないように準備を進めていきました。

まず、最初に取り組んだのは資材の購入でした。バックボードに必要なベニア板やたる木、ペンキや釘など、家畜たちを飼育するための柵（小屋）に使うタキロンやコンパネ、針金など様々なものを買ひ回りました。

そして、四号館を使っての作業は、バックボード作りからはじめました。二年生の後輩の一人に信頼をおき、下絵書きは殆んど全てを任せただけですが、私の予想をはるかに上回る立派な下絵を何種類か描いてもらいました。又、色

付けの作業の時には数多い一、二年生の後輩達に手伝ってもらい順調なほどに仕上がっていききました。その後輩の中には、女子が何名か含まれていて、その人達には夜遅くまで手伝ってもらったことに、男子の人達以上に感謝しています。

何日かが過ぎ、割と満足のいく出来ばえに仕上がったバックボードを壁に立てかけておき、そして、次の作業の家畜たちの柵作りを始めました。この作業は、四号館の前の先生方の駐車場や、学生の自転車置き場、通路を使うため、放課後、しかもある程度、学生が帰ってから取りかかる作業であったため、夜遅くまでや朝早くからという寒さと時間との闘いでもあり大変なことでした。（家畜苑のために駐車場を明け渡していただいた先生方には感謝しております。ありがとうございました。）

しかし、そのような生活を繰り返しながら（時には学校に泊り込んだり）も、徐々に柵は形を整えていきました。そして、前夜祭を明日に控えた前日に、バックボードを取り付け、やっとの思いで家畜たちを飼育する柵がすべて出来上がりました。又、その日に農場の方から、家畜たちも到着しました。

この日の為にと皆で協力しあい頑張ってきた。収穫祭での家畜苑は、天候にも恵まれ、家畜たちもたいした病気が怪我もせず、大勢の方々に見学してもらったことが大き成功だったと確信できるものでした。

これには、10月初めの頃から、収穫祭が終わり片付けを

する日まで自分と一緒に頑張ってくれた同輩の皆様、数多い後輩の皆様、そして、激励して下さった先輩の皆様の御陰だと感じています。本当にありがとございました。

最後になりましたが、顧問を引き受けて下さった近江弘明先生、田中一栄農場長をはじめ富士畜産農場の方々、そして各研究室の先生方、先輩方、本当にありがとございました。来年もご迷惑をお掛けすると思ひますがその時はどうぞ宜しくお願い致します。

本年度の家畜苑は、北門装飾と共に過去の実績が認められ、収穫祭で表彰していただきました。後輩の方々は今後ともこれを誇りとして、更に頑張ってください。

一昨年の委員長、細野先輩、昨年の委員長原川先輩と同様、私も今回委員長を務めることができ誇りに思ひます。

北門装飾

三年 梅 脇 博 志

大学に入って二年間、恥かしい話ですが収穫祭の期間は、実家が畜産農家である為、稲刈りやわら集めを手伝

いに帰京していたので北門装飾という存在すら知りませんでした。こんな自分が北門装飾の委員長を任せられたのは、七月でした。この時点ではまだ事の重大さに気がつきませんが、九月の終り頃、副委員長の原野さんから電話があり、この時から頭の中は収穫祭のことについていなくなっていきました。

今年には創立百周年ということもあり、例年以上の作品を仕上げなければならぬプレッシャーと、収穫祭の経験不足からくる不安感がある中で、超ビックなものを作ってやろうという気ばかりで、時間だけが過ぎていきました。その上、家畜苑や体育祭は順調に進んでいるのに対し、我が北門装飾は思うように進みませんでした。

収穫祭の半月前になると、自分も含め、のんびり屋の集まりだった北門装飾軍団の尻に火がつき、燃え上がっていききました。まず初めの仕事は、ベニヤに下地の色を塗りました。一度塗りで済むと思っていたのですが、むらぎできたので二度塗りをしなければならぬでした。この時には、北門装飾でない人にも手伝ってもらい大変助かりました。それからは、順調に進んでいたのですが下絵を書いていた原野さんが、連日の過労でダウンしてしまいました。この時には、自分が下絵を書かなければと、筆を取りかけましたが、そんなことをした日には、北門装飾の名誉に傷が付くと思ひ、美術部の川上君にも下絵を書いてもらいました。最初はどうかなるか不安でしたが、手伝ってくれたみんなのおかげで、すばらしい北門

になりました。
最後に、諸先生方、諸先輩方御支援、御協力ありがとうございました。又、夜遅くまで手伝ってくれた同輩、眠たい目を、こすりながら最後までついてきてくれた後輩、本当にありがとうございます。後輩達には、今年以上のものを期待しているので、頑張ってください。

文展の思い出

三年 矢部 次郎

農大百周年記念収穫祭の畜産学科文化芸術展委員長を何も知らない私は軽く引き受けてしまった。初めは大した事をするわけじゃないだろうと思っていたのですが、収穫祭が近づくといろいろな仕事を委員長が指揮して行かなければならないことに気がつきはじめました。農大百周年ということで、内容は学科統一テーマでやると決められていたので、各研究室ごとに別れてできる様なテーマを各研究室の代表のみんなと考えるのに大変な時間をかけて決めた事を覚えています。
九月中旬ようやくテーマが決まり、仕事に取り掛かることができました。いろいろと自分の手違いでみんな

に迷惑をかけてしまったことも多々あったが、みんなはそれを気にせず仕事をきびきびこなして、自分に付いてきてくれたので大変嬉しかったです。
夏休みも終り、もういよいよ後がないところでやっと文展の会場作りや発表するものが出来上がりました。あの作業が終わった時、今までの苦労が走馬灯のように思い出されました。でもこの時に文展をやって本当に良かったと素直に思うことができました。
文展の内容は、表彰されるようなものではありませんでしたが、畜産学科のみんなが団結、協力してつくり上げたものというだけで、自分は満足できました。
自分は今まで、畜産学科の行事にあまり参加しなかったので、わからないことづくめで、先輩方や、先生方に大変心配をかけてしまいました。今回の失敗したことや経験した事をいかして、来年の三年生が文展をやる時にいろいろ指導してあげたいと思っています。
最後に、協力してくれたみんなや、先生、先輩方に一言、「本当にありがとうございます。」と言わせていただきます。

創立百周年記念収穫祭役員

本部		宣伝隊		前夜祭・特別企画		体育祭	
統一委員長	相原貴弘 (三年)	隊長	前田博士 (三年)	委員長	三沢英希 (二年)	委員長	荻根孝範 (三年)
副委員長	井出宗介 (二年)	副隊長	村田勝己 (二年)	副委員長	桧垣彰 (二年)	副委員長	本多良助 (二年)
会 計	原野幸子 (二年)	会 計	原野幸子 (二年)	会 計	須田忠史 (二年)	会 計	原野幸子 (二年)

家畜苑

委員長	村山壮一 (三年)
副委員長	山口大輔 (三年)
会 計	原野幸子 (二年)

北門装飾

委員長	梅脇博志 (三年)
副委員長	原野幸子 (二年)
会 計	原野幸子 (二年)

文化芸術展

委員長	矢部次郎 (三年)
副委員長	武山哲郎 (三年)
会 計	川畑智里 (三年)

参加協力者

前夜祭		特別企画	
三沢英希	井出宗介	先生のど自慢大会	
村田勝己	加瀬一彦	飯山礼文先生	
須田忠史	福島真也		
	尾形武俊		

学生のご自慢大会

橋本裕樹
木内宏行
保科幸広
河合知子
上田陽子
稲森浩子

美人コンテスト

村山壮一

ミスター農大

荻根孝範

ミス農大

飯倉さちこ

野外劇

井出宗介 本多良助
村田勝己 平裕子
松垣彰 須田忠史
塚田隆宏 長谷川晶子

そっくりさんコンテスト

金谷克己

総合参加協力者

四年	廣田武司	塚本裕樹	保科幸広
八木重道	横井厳	吉田春昭	
吉原幸夫	松井伸人	永島正人	
西尾宗雄	原川竜也	川戸信司	
木内宏行	小川秀幸	印牧信司	
木村泰子	黒木一仁	河野正	
白石征	中村孝	廣瀬一茂	
三年	相原貴弘	梅脇博志	荻根孝範
村山壮一	東江直樹	浅井真吾	
浅見良子	足達和徳	飯倉さちこ	
家永友美	市川宏	伊藤麻奈美	
稲垣幸二	井原和子	丑越正一	
枝光礼江	大岩美好	太田龍太郎	
大野淳也	小川直樹	興松徹哉	
刑部美佐	加藤和道	川上啓介	
川崎太郎	川島俊和	木暮高成	
川畑智里	久保陽司	坂本直	
小室隆則	境哲也	佐々木浩人	
櫻井修	佐々木朝康	菅原直美	
佐藤周史	清水貴智	鈴木典子	
鈴木恵子	鈴木貴久	立野豊	
關雅子	田代俊哉	塚田隆之	
田野理恵	玉木義彦		

二年

豊島理士 豊島教広 中野俊也
成毛孝也 蓮見紀行 藤井民木
船津祥子 前田博史 松井綾子
秋山宏幸 村山透 矢部次郎
山口大輔 横谷英樹 渡邊栄作
清水千織 細田亜矢子

一年

井出宗介 本多良助 三沢英希
村田勝己 原野幸子 原剛寛
安藤幸宏 池谷恵美子 井出剛寛
伊藤容子 内田信彦 大西能生彦
尾形武俊 甲斐周 景山亜矢子
加瀬一彦 金谷克己 北川麗
小嶋智子 佐藤優子 白石さやか
平裕子 塚田雄志 手塚剛
西口晴子 西家武志 藤田理香
三谷哲生 安摩英樹 渡邊都
塚垣彰 須田忠史 峯岸学
土田雄一 村上泉 塚田隆宏
長谷川晶子 狩野雅幸 沼野雅人
原田安貴 福島真也

その他多くの参加御協力、
ありがとうございました。

創立百周年記念収穫祭結果報告

前夜祭・特別企画
総合順位 五位
前夜祭 ユーモア賞 十位
野外劇 十八位
先生のご自慢 十六位
半澤恵先生 熱演賞 三位
飯山礼文先生 準優勝
学生のご自慢
橋本裕樹
木内宏行・保科幸広
美人コンテスト
村山壮一
ミスター農大
荻根孝範 五位
ミス農大 十一位
飯倉さちこ
そっくりさんコンテスト
金谷克己 不明

東京農業大学農友会創立100周年記念収穫祭 畜産学科統一本部決算報告

	予 算	決 算	差引き (残高)
統 一 本 部	170,000	225,832	△ 55,832
前夜祭・特別企画	40,000	5,800	34,200
体 育 祭	40,000	40,428	△ 428
宣 伝 隊	30,000	33,188	△ 3,188
北 門 装 飾	10,000	0	10,000
家 畜 苑	10,000	6,002	3,998
計	300,000	311,250	△ 11,250

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立100周年記念収穫祭
畜産学科統一本部会計

原 野 幸 子

平成三年度畜友会会計監査

四年 保 科 幸 広

三年 村 山 道 彦

二年 藤 田 里 香

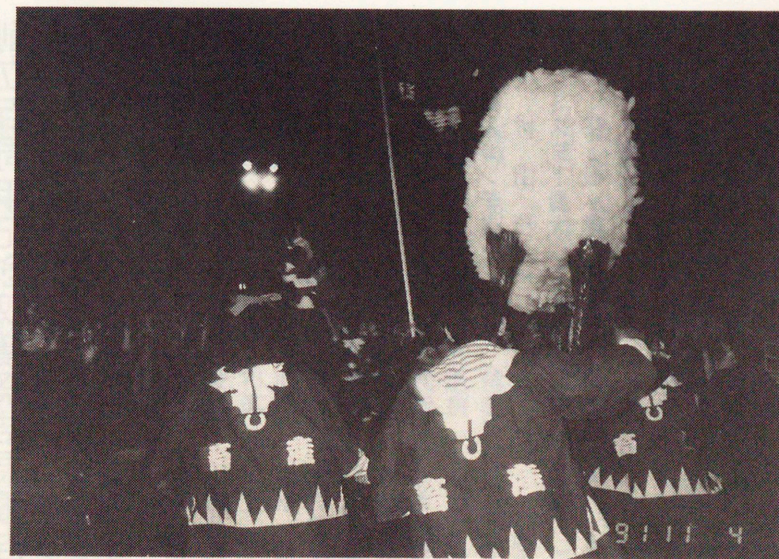
一年 斉 藤 睦

体 育 祭
総 合 順 位
農大競馬
玉入れ
米俵レース
先生がんばって
農大健児の意気を見よ
綱引き
教職員対抗リレー
各教科対抗リレー
1/10 マラソン
応援合戦
やぐら装飾

男子
女子

九 七 六 五 四 三 二 一 位
位 位 位 位 位 位 位 位 位

家畜苑・北門装飾
今までの功績に対し、感謝状を頂きました。



畜友会だより

平成四年度定期総会報告

平成三年十二月十八日にち、一号館特二教室にて平成四年度畜友会定期総会が開催されました。総会には、正会員76名が出席。特別会員の先生方にも多数出席していただきました。議長には、家畜生理学研究室の(三年)が選出され、左記の議題が承認されました。

- 一、平成三年度事業報告及び会計報告
- 二、平成四年度事業計画及び予算案
- 三、役員選出

平成四年度畜友会役員名

平成四年度の畜友会定期総会において信任された畜友会役員は、左記の通りで任期は平成五年度の定期総会までとします。

委員長 南條 拓夫 育種(三年)

副委員長	会 計	会 計 補 佐	渉 外	企 画	書 記	庶 務
本村 多山 助 透 繁殖(三年)	大野 淳 也 飼養(三年)	原野 幸 子 生理(二年)	須井 田 出 頭 忠 宗 史 介 保 史 介 生理(三年)	前 田 英 博 泉 希 史 衛生(三年)	村 上 沢 田 英 博 泉 希 史 衛生(三年)	塚 田 勝 隆 学 己 之 經營(三年)
						秋 山 宏 幸 利用(三年)
						土 田 雄 一 利用(二年)
						松 垣 雄 一 利用(二年)
						長谷川 晶 子 利用(二年)

平成四年度 畜友会役員

平成3年度畜友会決算報告

(平成3年12月18日現在)

収入の部	予算	決算	差引残高
前年度繰越金	218,871	218,871	0
(会費収入)			
新入生	1,000,000	1,312,000	312,000
編入生	32,000	0	△ 32,000
未納会費	252,000	0	△ 252,000
利息		6,338	6,338
計	1,502,871	1,537,209	34,338
支出の部	予算	決算	差引残高
卒業生送別会費	100,000	100,000	0
卒業生記念品費	200,000	206,000	△ 6,300
新入生歓迎会費	100,000	103,244	△ 3,244
「ふじみの」第30号印刷費	400,000	0	400,000
球技大会費	50,000	0	50,000
学内スポーツ大会援助費	100,000	94,056	5,944
夏期実習農場収穫祭説明会費	10,000	14,203	△ 4,203
収穫祭援助費	300,000	311,250	△ 11,250
総務費	150,000	71,213	78,787
予備費	92,871	37,075	55,796
計	1,502,871	937,341	565,530

収入総額 1,537,209 - 支出総額 937,341 = 次年度繰越金 599,868

上記相違ないことを認めます。
 平成三年度畜友会会計 吉田 春 昭
 平成三年度畜友会会計監査
 四年 保科 幸 広 三年 村山 道彦
 二年 藤田 里 香 一年 齊藤 睦

平成3年度畜友会事業報告

- 12月10日 平成3年度畜友会定期総会（於 一号館 特一教室）
- 3月 1日 会誌「ふじみの」30号発刊
- 3月20日 卒業祝賀会、卒業生記念品贈呈
- 4月10、11日 新入生学外オリエンテーションに参加
- 4月24日 新入生歓迎会（於 生協食堂グリーン）
- 5月24日～
6月15日 第21回学内スポーツ大会に参加
- 6月25日 第21回学内スポーツ大会慰労会（於 生協食堂グリーン）
- 8月 7日 収穫祭についての説明会（於 富士畜産農場）
- 10月 7日 創立100周年記念収穫祭畜産学科
統一本部 本部開き（於 生協食堂グリーン）
- 10月31日～
11月4日 創立100周年記念収穫祭に参加
- 11月15日 創立100周年記念収穫祭畜産学科
統一本部慰労会（於 生協食堂グリーン）

第二十一回 学内スポーツ大会結果報告

総合四位

バレーボール	(男子)	四位
バスケットボール	(男子)	四位
	(女子)	四位
バドミントン		二回戦敗退
ハンドボール		二回戦敗退
ミニサッカー		二回戦敗退
ゲートボール		四位
相撲		予選ブロック敗退
剣道		予選ブロック敗退
二十人なわとび		三位

平成4年度畜友会事業計画(案)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 12月18日 | 平成4年度畜友会定期総会 |
| 3月上旬 | 会誌「ふじみの」31号発行 |
| 3月下旬 | 卒業祝賀会、卒業生記念品贈呈 |
| 4月中旬 | 新入生学外オリエンテーションに参加 |
| 4月下旬 | 新入生歓迎会 |
| 5月下旬 | 第101回収穫祭畜産学科統一本部準備委員会発足 |
| 6月上旬～
中旬 | 第22回学内スポーツ大会に参加 |
| 6月下旬 | 第22回学内スポーツ大会慰労会 |
| 8月上旬 | 収穫祭についての説明会 |
| 10月上旬 | 第101回収穫祭畜産学科統一本部発足 |
| 10月下旬～
11月上旬 | 第101回収穫祭に参加 |
| 11月中旬 | 第101回畜産学科統一本部収穫祭慰労会 |

上記が畜友会の今年の活動です。会員の方々の積極的な参加をおまちしています。

東京農業大学畜産学科 "畜友会"規約

第一章 総 則

- 第一条 本会は東京農業大学畜友会と称す
- 第二条 本会は東京農業大学在学学生、教職員、及び卒業生をもって、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。
- 第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

第三章 役員及び機関

- 第六条 一、本会は、役員、クラス委員、及び監査をおく。
- 二、役員は委員長一名、副委員長三名、書記二名、会計一名、会計補佐二名、渉外四名、企画四名、庶務四名とする。
- 第七条 本会は顧問をおき、畜産学科長ならびに畜産学科主事が此の任にあたる。
- 第八条 一、第六条第一項の役員は、畜産学科各研究室の三年次生より一ないし二名の候補者を選出する。
- 二、クラス委員は、一、二年次生より若干名選出する。三年次生は、各研究室より一名ずつ選出する。
- 三、(1) 役員の学年は、委員長にあたっては三年次生とし、副委員長三名のうち三年次生二名、二年次生一名、会計は三年次生とする。
- (2) 委員長不在の場合は、副委員長が代行するものとする。
- 四、第六条第一項の監査員四名は各学年一名ずつ選出する。
- 五、第六条第一項のクラス委員は原則として五月に選出し、役員会の承認を得た後、直に公示する。

第二章 会 員

- 第四条 本会の会員は左記の三種をもって組織する。
- 一、正会員
- 二、特別会員
- 三、名誉会員
- 正会員は東京農業大学畜産学科在学学生、特別会員は東京農業大学畜産学科卒業生、並びに教職員。名誉会員は役員委嘱により承認を得たもの。
- 第五 条 会員が本会の業務執行妨害あるいは名誉を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

四、第六条第一項の監査員四名は各学年一名ずつ選出する。

五、第六条第一項のクラス委員は原則として五月に選出し、役員会の承認を得た後、直に公示する。

六、役員及び監査は定期総会において信任を得るものとする。
七、欠員が生じた場合、速やかに補充しなければならぬ。
但し、補充役員については、委員長が推薦し役員会において信任を得るものとする。

第九条 役員任期は原則として一年とする。

第十条 総会は正会員より構成され、本会の最高決議機関とする。

第十一条 一、総会は正会員の三分の一以上より成立する。
二、委任状は署名捺印（拇印を含む）を必要とし、議長に一任する。

三、委任状は総会に際し定足数に含まれる。
但し、委任状は議長委任とし、正会員総数の四分の一までとする。
四、委任状の検査は役員が行なう。

第十二条

定期総会は年一回十二月に招集する。
臨時総会は左記に該当した場合一ヶ月以内に召集しなければならない。
一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。
二、役員のおよそ三分の二以上が必要と認めたと

第十三条 定期総会に於いて次の事項を審議決定する。
き。

- (1) 前年度の事業報告
- (2) 前年度の会計報告
- (3) 役員改選
- (4) 当該年度の事業報告
- (5) 当該年度の予算案
- (6) その他

第十四条 総会の開催は五日前に公示しなければならない。

第十五条 総会における議長は、総会においてその都度互選する。必要に応じて議長は副議長を指名する。

第十六条 総会の議決は、出席者の過半数によって議決され、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者の過半数により役員の不信任を可決できる。

第四章 業務

第十八条 第六条第一項、第二項に定められた役員は本会の最高執行機関たる役員会を構成する。この役員会の召集は、委員長が行う。

第十九条 本会の事業年度及び会計年度は十二月一日より翌年十一月末日までとする。

第二十条 本会は左記の業務を行う。

- 一、会員親睦会
- 二、講習会及び研究発表会
- 三、見学調査
- 四、機関紙の発行
- 五、その他第二条に附帯する業務

第五章 会計

第二十一条 会費は年間二〇〇〇円とする。その納入は四年分一括し、入学時に納入のこと。

第二十二条 本会の運営は会員の納入する会費で運営する。但し第十九条の業務執行にあたり臨時徴収する場合もある。寄附行為は認める。

第二十三条 納入金の払い戻しは行わない。但し入学取消しの場合はその限りではない。

第六章 監査

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為監査委員をおく。

第二十五条 監査委員は、前条の目的達成の為、年度末に会計監査を行なう。
監査は監査委員が必要と認めれば随時できる。

第二十六条 監査委員は第六条第一項、第二項の役員に兼任は出来ない。

第七章 附則

第二十七条 本規定解釈の講義は、役員会において、最終的解釈する。

第二十八条 本規定の改正、及び追加は総会においておこなう。

第二十九条 一、本規定は、昭和三十五年六月二十九日より施行する。
二、本規定は、平成元年七月七日、一部改定

編集部では「ふじみの」第三十二号の原稿を募集致しております。より一層充実したものとす為にも、名譽会員、特別会員、学生多数の御協力をお願いします。

記

募集期間 平成四年六月～平成五年一月下旬

要 項 論文、随筆、紀行文、主張
四〇〇字詰、十枚以内
写真カット、は随意

宛 名 東京都世田谷区桜丘一―一―一
東京農業大学畜産学科内
畜友会

発行日 平成五年四月予定

応募原稿は一切お返し致しません。

畜友会 「ふじみの」
編集委員会
TEL 三三四〇二二二二

編集後記

「ふじみの」も昨年記念すべき30号を発刊しました。30号と一言でいってしまえば簡単ではありますが、この30年間という歴史は、毎年のように少人数の編集員でつくりあげた歴史であり、決して一言ではいい表わせないすばらしい歴史だと思います。

またこれからの「ふじみの」の発刊を新しい歴史として作り続けてくれることを後輩達に期待して編集後記と致します。

最後になりましたが、忙しい中、原稿を書いていただいた先生方、ならびに会員の方々に、厚く御礼申し上げます。

編集委員一同

平成4年3月1日 発行

“ふじみの” 第31号

編集責任者 渡邊誠喜
編集長 南條拓夫
発行者 畜友会

東京都世田谷区桜丘1-1-1
発行所 東京農業大学畜友会
電話 (3420) 2131 (呼)

東京都世田谷区経堂1-6-13
印刷所 エルデ・タイプ社
電話 (3429) 1067



1992